科　目 コード	31140	授業 科目	ヘルスアセスメント (Health assessment)	担当 教員	○宮里智子　赤嶺伊都子 上原和代　大城真理子 栗原幸子　田場由紀 知念久美子　知念真樹 宮城裕子　山川和歌子 実務経験：あり

開講年次	2年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目 (保健師課程・看護師課程)	授業 形態	講義・演習
選択必修	必　修	時間数	45時間				

履修条件		
	前提科目	なし
	その他	なし

授業概要	個人の健康状態を全人的に理解するために必要なヘルスアセスメントの概念と枠組みを学ぶ。さらにフィジカルアセスメントに焦点をあて、フィジカルアセスメントに関する基本的な知識、技術と態度を学ぶとともに、ライフサイクル各期に特有の方法と留意点についても演習を通して具体的に学修する。
到達目標	1. ヘルスアセスメントの意義と必要性について述べることができる。 2. 看護の対象となる人々を包括的にとらえるための概念枠組みについて説明できる。 3. 看護の対象となる人々を身体的、心理的、社会的側面に捉えた情報の収集ができる。 4. ヘルスアセスメント技法を用いて主観的・客観的情報を収集し記述できる。 5. 看護の対象となる人々の安全、安楽に配慮してヘルスアセスメント技法を使うことができる。 6. 収集した情報と根拠に基づいたヘルスアセスメントをし記述できる。 7. ライフサイクル各期に特有なアセスメントの方法について説明できる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 (学習課題)	担当教員	授業形態
第 1 回	1. ヘルスアセスメントとその概念枠組み	テキスト 1. pp. 2-94	宮　里	講義･演習
第 2 回	2. 健康歴聴取と面接技術	〃	〃	
第 3 回	3. 模擬患者を活用しての健康歴聴取	〃	〃	
第 4～6 回	4. ヘルスアセスメントに必要な技法 視診、触診、打診、聴診、頭頸部・胸部の観察の視点（胸骨角の確認等）ミニテスト①	テキスト 1. pp. 10-31 96-112, 124-138.	宮　城	
第 7・8 回	5. 呼吸器系のアセスメント　ミニテスト②	テキスト 1. pp. 177-187.	栗　原	
第 9・10 回	6. 循環器系のアセスメント	テキスト 1. pp. 188-206.	山　川	
第 11～12 回	7. 神経系のアセスメント（特殊感覚含む） ミニテスト③	テキスト 1. pp. 158-176.	大　城	
第 13・14 回	8. 筋骨格系のアセスメント ミニテスト④	テキスト 1. pp. 139-157.	田　場	
第 15～17 回	9. 消化器系のアセスメント　ミニテスト⑤	テキスト 1. pp. 207-233.	宮　里	
第 18～20 回	10. 技術の確認（呼吸・循環）	演習ノート 配付資料	田　場	
第 21 回	11. 高齢者のアセスメント			
第 22 回	12. 女性のアセスメント（乳房）	テキスト 1. pp. 246-252.	知念（久）	
第 23 回	13. 小児のアセスメント（乳児健診項目含む）	テキスト 2. pp. 71-74	上原・知念（真）	

テキスト	1. 三上れつ編.（2017）. ヘルスアセスメント（改訂第2版）. 南江堂. 2. 中野綾美編.（2015）. ナーシング・グラフィカ　小児看護学②　小児看護技術. メディカ出版

参考文献	・藤崎郁．(2017)．フィジカルアセスメント完全ガイド　第３版．Gakken. ・山内豊明．(2011)．フィジカルアセスメントガイドブック．医学書院. ・Violet H.Barkauskas，他．(1998)．ヘルス・フィジカルアセスメント上巻、下巻．日総研出版 ・福井次矢，他監．(2015)．ベイツ診療法　第２版．メディカルサイエンスインターナショナル.
他科目との関連	人体の構造と機能、人体の構造と機能演習、生活援助・療養援助技術Ⅰ等の既習科目の内容を統合し、生活援助・療養援助技術実習などの科目へとつなげながら学ぶ。 本科目は看護師課程、保健師課程の読み重ね科目である。
成績評価の方法	ミニテスト30%（10点×5回）、技術の確認20%、演習ノート45%、グループワークの参加5%
学習相談・学習体制	毎回の授業終了後に、授業をとおして理解が深まった点や疑問点、授業に対する感想や要望などの内容の授業評価の提出を求め、次回授業に説明補充を行うことで理解をはかります。オフィスアワーは担当教員個別に調整し、研究室にて対応します
学習指導上の工夫	授業前にデジタル教材等で知識習得を行い、授業で知識と技術の確認を行う。
授業改善の特記事項	テキストの内容を補充・説明する資料を配付する。
備　考	学生は事前学習に取組み提出したうえで授業に参加する。また、演習記録をその日のうちにまとめ提出する。 ・本科目は、看護師課程「基礎看護学」及び保健師課程「個人・家族・集団・組織の支援」「公衆衛生看護活動展開論」の内容を含む。

科　目 コード	31152	授業 科目	生活援助・療養援助技術Ⅱ (Fundamental Nursing SkillsⅡ)	担当 教員	○金城忍　栗原幸子 山川和歌子 実務経験：あり

開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演　習
選択必修	必　修	時間数	30時間				

履修条件		
	前提科目	生活援助・療養援助技術Ⅰ
	その他	なし

授業概要	看護技術の修得レベルを自己評価しつつ学習するプロセスを通して、無菌操作、導尿、浣腸、経管栄養などの看護技術について学修する。
到達目標	1.健康障害をもち、一般的な治療を必要としている人への看護技術とは何か、を述べることができる。 2.一般的な治療を必要としている人へ看護技術を適用していくなかで、コミュニケーションをとることができ、実施後の反応を記録・報告することができる。 3. 無菌操作の原則を理解し、「傷の手当ての介助」の行動のポイントとその根拠を述べることができる。 4. 「経管栄養法」、「導尿」、「浣腸」を必要としている対象者の状況を述べることができる。 5. 「経管栄養法」、「導尿」、「浣腸」の行動のポイントとその根拠を述べることができる。 6.モデル人形に「経管栄養法」を実施することができる。 7.診断・治療過程に伴う侵襲的な治療を必要としている人への看護技術とは何かを述べることができる。 8.診断・治療過程における看護者の役割について実施することができる。 9.診断・治療過程に伴う侵襲的な治療を必要としている人へ看護技術を適用していくなかで，コミュニケーションをとることができ，実施後の反応を記録・報告することができる。 10.「検査」を必要としている対象者の状況を述べることができる。 11.「採血」の行動のポイントとその根拠を述べることができるとともに，無菌操作の原則を想起しながら，モデル人形に実施することができる。 12.自己の看護技術の修得レベルを評価し、今後の学習課題を述べることができる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第1回	生活援助・療養援助技術Ⅱの導入	配付資料 1-1～1-11	金　城	演　習
第2～4回	M4：感染を予防する：「無菌操作」「傷の手当ての介助」①～③	テキスト1.pp.76-77,配付資料 4-1～4-10	金　城	
第5・6回	M7：食と排泄のバランスをととのえる：「経管栄養法」①②	テキスト1.pp.131-135,配付資料 7-1～7-8	山　川	
第7～9回	M7：食と排泄のバランスをととのえる：「導尿」「浣腸」①～③	テキスト1.pp.141-149,配付資料 7-9～7-16	山　川	
第10～15回	M8：診断過程と看護：検査と看護 「採血技術」①～⑥	テキスト1. pp.151-162，配付資料 8-1～8-17	栗　原	
第16回	期末試験　「経管栄養法」の個別チェック			

テキスト	1. 薄井坦子監修.（2004）. Module 方式による 看護方法実習書 第3版. 現代社.

参考文献	・眞田清子，他．(1996)．患者理解への看護の視点 科学的看護論を使う．日本看護協会出版会. ・薄井坦子．(2014)科学的看護論．第３版＜新装版＞．日本看護協会出版会. ・薄井坦子．(2003)看護のための人間論 ナースが視る人体．講談社. ・薄井坦子．(2006)看護のための疾病論 ナースが視る病気．講談社.
他科目との関連	日本語表現法，身体活動論，人体の構造と機能，人体の構造と機能演習Ⅰ，微生物と免疫，人間関係論，看護学原論にて学んだ内容を踏まえて学習を深める。さらに生活援助・療養援助技術Ⅰにて修得した技術を学内演習で繰り返し使い，修得レベルを高める。
成績評価の方法	①授業への貢献 15%、②実習記録・レポート 20%、③モジュール毎に行う筆記試験 20%、④技術の個別チェック 45%、で評価を行う。
学習相談・学習体制	毎回の授業終了後に、授業を通して理解が深まった点、身についたこと、疑問点や修得できなかった技術のポイント、授業に対する感想や要望などの内容の授業評価の提出を求め、次回授業に説明補充を行うことで理解をはかる。演習は５名１グループに分かれて行い、教員が２グループを受け持つため、学生の学習状況の把握と指導は、グループ担当教員が中心となって行う。また、演習時間外で教員の指導を受けることができるよう教員を配置し、事前に日程を提示する。オフィスアワーは，グループ担当教員個別に時間調整し，研究室にて対応する。
学習指導上の工夫	(自己学習- グループ学習- 個別指導- 自己評価)システムで学習する
授業改善の特記事項	計画的に課題に取り組めるよう，課題の提出時期や内容を一覧にした資料をオリエンテーション時に配布する。また，演習時間外での自己学習を行えるように実習室物品配置の提示や自己学習教材を完備する。さらに各モジュールに，テキスト内容を補充する資料を配付する。
備　考	・ミニテストを行うので、事前学習を行って準備すること。 ・演習時間は教員からの直接的指導を受ける機会である。よって演習に取り組む前にビデオを視聴する、教科書を確認するなどは、グループメンバー同士で時間外に取り組み授業に臨むこと。 ・期末試験として個別チェックを実施する。

科　目 コード	31153	授業 科目	生活援助・療養援助技術Ⅲ (Fundamental Nursing SkillsⅢ)	担当 教員	○金城忍　栗原幸子 山川和歌子 実務経験：あり

開講年次	2年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演　習
選択必修	必　修	時間数	30時間				

履修条件		
	前提科目	生活援助・療養援助技術Ⅱ
	その他	なし

授業概要	看護技術の修得レベルを自己評価しつつ学習するプロセスを通して、診断・治療過程に伴う侵襲性の高い看護技術について学修する。
到達目標	1.診断・治療過程に伴う侵襲的な治療を必要としている人への看護技術とは何かを述べることができる。 2.診断・治療過程における看護者の役割について実施することができる。 3.診断・治療過程に伴う侵襲的な治療を必要としている人へ看護技術を適用していくなかで，コミュニケーションをとることができ，実施後の反応を記録・報告することができる。 4.「与薬」を必要としている対象者の状況を述べることができる。 5.「注射」,「点滴静脈内注射」の行動のポイントとその根拠を述べることができるとともに，無菌操作の原則を想起しながら，モデル人形に実施することができる。 6.看護過程展開の技術を理解し、実施することができる。 7.自己の看護技術の習得レベルを評価し,今後の学習課題を述べることができる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第1回	生活援助・療養援助技術Ⅲの導入	配付資料 1-1～1-9	金　城	演　習
第2～4回	M8：診断過程と看護：与薬と看護 「注射技術」①～③	テキスト1.pp.163-167，配付資料 8-18～8-26	金　城	
第5回	M8：診断過程と看護：与薬と看護 「点滴静脈内注射」「経口与薬法」①	テキスト1.pp.168-170，配付資料 8-27～8-39	山　川	
第6～15回	M10：看護過程展開の技術：紙上事例①～⑩	テキス1.pp.45-46，pp.205-214，配付資料 10-1～10-12	栗　原	
第16回	期末試験（レポート）			

テキスト	1. 薄井坦子監修. (2004). Module 方式による 看護方法実習書 第3版. 現代社.
参考文献	・薄井坦子. (2003). 看護のための人間論 ナースが視る人体. 講談社. ・薄井坦子. (2006). 看護のための疾病論 ナースが視る病気. 講談社.
他科目との関連	生活援助・療養援助技術Ⅱにて関連する科目と，臨床薬理，病態生理，疾病論Ⅰ・Ⅱにて学んだ内容を踏まえて学習を深める。同時に専門関連科目の「保健看護Ⅰ」を踏まえて習得すべき看護技術を全ての対象に適応し得るようにイメージしながら技術修得に取り組む。
成績評価の方法	①授業への貢献20%，②実習記録20%，③モジュール毎に行う筆記試験20%，④期末試験40%で評価を行う。

学習相談・学習体制	毎回の授業終了時に，授業を通して理解が深まった点，身についたこと，疑問点や修得できなかった技術のポイント，授業に対する感想や要望，についてのアンケートを記入してもらい，次回の授業にてフィードバックを行う。また，演習時間外で教員の指導を受けることができる日程を事前に提示する。オフィスアワーは，グループ担当教員個別に時間調整し，研究室にて対応する。
学習指導法の工夫	(自己学習- グループ学習- 個別指導- 自己評価)システムで学習する
授業改善の特記事項	計画的に課題に取り組めるよう，課題の提出時期や内容を一覧にした資料をオリエンテーション時に配布する。また，演習時間外での自己学習を行えるように実習室物品配置の提示や自己学習教材を完備する。さらに各モジュールに，テキスト内容を補充する資料を配付する。
備　考	・ミニテストを行うので、事前学習を行って準備すること。 ・演習時間は教員からの直接的指導を受ける機会である。よって演習に取り組む前にビデオを視聴する、教科書を確認するなどは、グループメンバー同士で時間外に取り組み授業に臨むこと。

科　目 コード	31160	授業 科目	生活援助・療養援助実習 (Fundamental Nursing Skills Practicum)	担当 教員	○金城忍　宮里智子 栗原幸子　山川和歌子 実務経験：あり

開講年次	2年次 後期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目 (保健師課程・看護師課程)	授業 形態	実　習
選択必修	必　修	時間数	90時間				

履修条件	前提科目	看護学原論　ヘルスアセスメント　保健看護包括実習　生活援助・療養援助技術Ⅲ
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。
授業概要		生活の場や療養の場について、看護の必要性を判断しながら、学修した生活援助技術や療養援助技術を安全かつ確実に実践、または見学し、評価する。このプロセスを通して、それぞれの生活援助技術・療養援助技術の目的、原理原則、具体的方法ならびに看護実践方法論について学修する
到達目標		1. 看護専門職者を目指す学生としての責任を自覚し、看護学生にふさわしい態度で行動することができる。 2. 療養生活を送っている患者や家族の尊厳を守りながら関わることができる。 3. 受け持ち患者の全体像を描き、看護の必要性を把握することができる。 4. 受け持ち患者の療養生活に関する援助の必要性について道筋を立てて考え、対象の持てる力を発揮する方向で看護計画を立案することができる。 5. 対象の反応を見定めながら、看護計画に沿って実施することができる。 6. 実施した看護を対象の位置から評価することができる。 7. 受け持ち患者を支えている保健医療福祉等の関係職種間の連携・調整について説明することができる。 8. 自己の看護実践を振り返り、今後の学習課題を明確にすることができる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	指導教員
10日間	1. 実習内容 1) 学生は、患者１名を受け持ち、病棟の看護師あるいは実習指導教員の直接指導のもとに、患者の日常生活の援助を行う。 2) 学生は、事前に得た患者に関する情報をもとに受け持ち患者の全体像を描き、より健康な状態に向かうための条件を考えて実習に臨む。 3) 受け持ち患者の看護に参加しながら患者の全体像をつくり変え、その時々の気持ちを感じ取りつつ、看護の必要性を判断する。 4) 患者の持てる力を最大限に発揮する方向で計画を具体化し、看護を実施する。 5) 実施に際しては、現実の状況に合わせて手段を選択し、実施した結果を対象の反応から評価する。 6) 実施した看護について、病棟の看護師や実習指導教員に報告を行う。 7) 受け持ち患者を支えている保健医療福祉等の関係職種間の連携・調整の具体例について学ぶ。 8) 看護技術の実施と自己評価を通して、今後の学習課題を明確にする。 2. 実習方法 1) 実習期間：2週間（土、日を除く） 2) 実習時間：8：00～16：00 （実習施設の状況に応じて、具体的な時間を設定する） 3) 実習施設：県立病院、その他県内医療機関 4) 実習の進め方 ・実習初日に実習指導教員および実習施設職員のオリエンテーションを受ける。 ・病棟の看護師や実習指導教員が行う受け持ち患者への看護にともに参加しながら現在の生活の状況や行われている治療や看護の実際を見て、その意味を考える。患者の全体像をつくりかえながら、徐々に主体的に看護を実施していく。	金　城 宮　里 栗　原 山　川

	・実習初日から実習2日目までは、一人の看護師の行う看護について行動し、病棟の様子や病棟で行われている看護ケアを把握する。 ・実習3日目からは、看護師や実習指導教員の行う受け持ち患者への看護に参加しながら、現在の生活の状況や行われている治療や看護の実際を見て、その意味を考える。患者の全体像をつくりかえながら、徐々に主体的に看護を実施していく。 ・受け持ち患者を支えている保健医療福祉等の関係職種間が連携・調整のために行うカンファレンス等に参加する。あるいは、病棟の看護師や実習指導教員から関係職種間の連携・調整について説明を受ける機会をもつ。 ・実習中は、毎日実習カンファレンスを行う。 ・実習記録を所定の用紙に記載し、提出する。 ・病棟での実習と振り返り学習を通して学んだことをレポートし、提出する。 ・看護技術の実施、自己評価を行い、今後の学習課題を明確にする。 ・実習中は、実習指導教員および臨床実習指導者と密に報告、連絡、相談を行う。	
テキスト	実習の手引き	
参考文献	・眞田清子，他．(1996)．患者理解への看護の視点 科学的看護論を使う．日本看護協会出版会. ・薄井坦子．(2014)．科学的看護論．第３版＜新装版＞．日本看護協会出版会. ・薄井坦子監修．(2004)．Module 方式による 看護方法実習書 第３版．現代社. ・薄井坦子．(2003)．看護のための人間論 ナースが視る人体．講談社. ・薄井坦子．(2006)．看護のための疾病論 ナースが視る病気．講談社	
他科目との関連	生活援助・療養援助技術Ⅱにて関連する科目や，専門関連科目の「保健看護Ⅰ」をふまえて受け持ち患者の看護の必要性を明確にし，看護計画を立案し，実際に看護を展開していく。 本科目は保健師課程・看護師課程の読み重ね科目である。	
成績評価の方法	倫理的な姿勢（到達目標1～到達目標2：32%），本実習に特化した実習目標（到達目標3～到達目標６：60%），関係職種との関係性（到達目標7：4%），および今後の学習課題（到達目標８：4%）によって評価する。	
学習相談・学習体制	実習前には学内にて実習に対する疑問点の相談を受ける。実習期間中は実習指導教員のみならず，基礎看護教員からのサポートも行う。	
学習指導上の工夫	少人数授業	
授業改善の特記事項	実習では「生活援助・療養援助技術Ⅰ」、「生活援助・療養援助技術Ⅱ」で用いたテキストや資料を活用しながら、理論と実践をつなげていけるように指導していく。	
備　考	体調管理に留意しながら，実習に臨むこと。具体的には，実習期間中は，起床時体温測定，体調確認を行うこと。 ・本科目は、看護師課程の「臨地実習」『基礎看護学』『在宅・地域看護論』『成人看護学』『小児看護学』『老年看護学』『母性看護学』及び保健師課程「個人・家族・集団・組織の支援実習」の内容を含む。	

科　目 コード		授業 科目	看護過程展開演習 (Nursing process Seminar)	担当 教員	○栗原幸子　仲本勉 下中壽美　山本真充 宮城裕子　光来出由利子 長濱直樹 実務経験：あり

開講年次	2年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目 (保健師課程・看護師課程)	授業 形態	演　習
選択必修	必　修	時間数	30時間				

履修条件		
	前提科目	生活援助療養援助実習
	その他	なし

授業概要	看護の対象との良好な対人関係を基礎として、対象とその家族、及び対象の暮らす地域の状況に応じた看護過程（情報収集、アセスメント、計画立案、実施、評価）の展開について学修する。
到達目標	1.「看護過程展開」が、看護の目的意識に沿って、対象に関する情報の収集・アセスメント、目標の設定・看護の必要性の判断・看護計画の立案、実施、評価のステップを含むプロセスであることを、自身の実習体験および紙上事例を通して説明できる。 2. 看護過程には、問題解決のプロセスとして PDCA サイクルとしてとらえる側面（「看護過程展開」の形式的な側面）と、看護実践の特殊性（「看護過程展開」の内容の側面）が含まれていることを説明できる。 3.「看護過程展開」の各ステップには、看護職者と看護の対象（者）との相互作用により行われ過程として進んでいる看護実践の原基形態が内包されていることを、具体例で説明できる。 4. 看護の対象の発達段階（こどもから高齢者まで）、健康障害の種類（人間が生き・生活する上で必要な働きに、どのような変化を生じているか）と健康のレベル（予防、急性期、回復期、慢性期、終末期など）、対象の単位（個人、家族、集団、地域）、対象の生活の場（在宅、病院、外来、療養施設）により異なる看護過程展開の特殊性を、具体例で説明できる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 (学習課題)	担当者 名	授業形態
第１回	導入 看護過程展開とは 実習での受け持ち事例を振り返り、看護過程展開の各ステップが含まれていることを確認する。	各講義時間に提示する	栗　原	演　習
第２・３回	成人期の対象への看護過程展開①② 成人期の対象者への看護過程展開について、実習での受け持ち事例または紙上事例を用いて学習する。		宮　城	
第４・５回	老年期の対象への看護過程展開①② 老年期の対象者への看護過程展開について、実習での受け持ち事例または紙上事例を用いて学習する。		光来出	
第６・７回	精神保健看護の看護過程展開①② 精神保健看護の看護過程展開について、実習での受け持ち事例または紙上事例を用いて学習する。		仲　本	
第８・９回	小児期の対象への看護過程展開①② 小児期の対象者への看護過程展開について、実習での受け持ち事例または紙上事例を用いて学習する。		山　本	
第 10・11 回	周産期の対象への看護過程展開①② 周産期の対象者への看護過程展開について、実習での受け持ち事例または紙上事例を用いて学習する。		下　中	
第 12・13 回	地域保健看護の看護過程展開①② 地域保健看護の看護過程展開について、実習での受け持ち事例または紙上事例を用いて学習する。		長　濱	

第 14 回 第 15 回	看護過程展開の共通性と相異性（グループワーク） これまでに学習した各専門領域の対象（者）への特徴的な看護過程展開の共通性と相異性について、グループディスカッションを行う。 看護過程展開演習のまとめ		栗　原 栗　原	

テキスト	・茂野 香おる.(2021). 系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第18版. 医学書院.
参考文献	・石川ふみよ.(2015). 看護過程の解体新書. 学研メディカル. ・医学情報科学研究所.(2020).看護がみえるvol.4.看護過程の展開.第1版.メディックメディア. ・薄井坦子.(2018).Module方式による看護方法実習書.第3版.現代社. 他、各領域の看護過程展開で用いる文献
他科目との関連	第 2 段階実習から第 3 段階実習へ移行するためのつなぎとし、個別支援における看護の視点の基盤をつくる 本科目は保健師課程・看護師課程の読み重ね科目である。
成績評価の方法	レポート課題（100%）
学習相談・学習体制	授業での疑問等については、担当教員は随時対応する。
学習指導法の工夫	グループワークでの事例検討やロールプレイによる少人数授業とする。
授業改善の特記事項	グループワークを導入し、学生の主体的な授業への参加を促す。
備　考	・本科目は、看護師課程「基礎看護学」「在宅・地域看護論」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」及び保健師課程「個人・家族・集団・組織の支援」「公衆衛生看護活動展開論」の内容を含む

科　目 コード		授業 科目	クリティカルケア看護 (Critical care)	担当 教員	○謝花小百合　大城真理子 実務経験：あり

開講年次	3年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講　義
選択必修	必　修	時間数	15時間				

履修条件		
	前提科目	なし
	その他	なし

授業概要	疾病により、急性期や重症な状況にある人や周手術期にある人の病態生理・治療を理解し、生命維持、身体的リスクの軽減や苦痛症状の緩和、安全・安楽を保持するための看護について学修する。また、チーム医療における原則的な看護の役割や方法について基本的な知識を学修する。
到達目標	1. クリティカルケア看護の基本的概念を説明することができる。 2. 急性期や重症な状況や周手術期にある患者の身体的、心理的、社会的特徴および家族の特徴とニーズについて説明することができる。 3. 周手術期における看護ケアについて説明できる。 4. 急性期や重症な状況および周手術期にある患者や家族に対して包括的ケアが行えるよう多職種と連携・協働について説明することができる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第1回	科目ガイダンス 急性期看護（救急・周手術期看護を含む） 1. クリティカルケア看護の基本的概念 2. 急性期や重症な状況における看護ケア 1）救急時における看護ケア 2）急性期における看護ケア	テキスト1. pp. 1-31	謝　花	講　義
第２回	手術療法を受ける患者の看護 （術前：外来における周手術期患者・家族の特徴と看護援助方法）	テキスト 1. pp. 36-66 テキスト 2. pp. 7-74、pp. 196-197	大　城	
第３回	手術療法を受ける患者の看護 （術前：外科病棟における周手術期患者・家族の特徴と看護援助方法）	テキスト 1. pp. 67-92, pp. 273-284 テキスト 2. pp. 75-134, pp. 197	〃	
第４回	手術療法を受ける患者の看護 （術中看護：手術室における看護の役割）	テキスト 1. pp. 93-146 テキスト 2. pp. 135-156	〃	
第５回	手術療法を受ける患者の看護 （術後に起こりえる患者の病態・合併症予防に対する看護ケア）	テキスト 1. pp. 93-146 テキスト 2. pp. 135-156	〃	
第６回	周手術期の患者および家族の危機的状況におけるアセスメントと看護ケア　退院に向けた指導・支援事例を用いて	配布資料の熟読	謝　花	
第７回	術後に薬物療法および放射線療法を受ける患者の症状緩和および安楽への看護ケア	テキスト 3. pp. 118-142、配布資料	大　城	
第８回	急性期や重症な状況にある人や周手術期にある人や家族に対する看護（事例検討および発表）	上記 1～7 回のまとめ、事例検討の準備	謝　花	
第９回	期末試験			

テキスト	1. 林直子，佐藤まゆみ.(2019).成人看護学　急性期看護Ⅰ概論　周手術期看護．改訂第 3 版．南江堂. 2. 石塚睦子．(2017)．よくわかる周手術期看護．Gakken.

参考文献	・黒江ゆり子．(2018)．看護診断ハンドブック　第11版．医学書院.
他科目との関連	病態生理、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱ、ヘルスアセスメント、生活援助療養援助技術Ⅰ・Ⅱの関連科目の内容を踏まえて学習を深める。
成績評価の方法	事前課題レポート・講義時に提示する課題レポート（40%）、テスト（60 %）で評価を行う。
学習相談・学習体制	毎回の授業の終了時に、理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を記載した出席カードの提出をもとめ、次回授業時に説明補充、意見交換等で理解を図る。 オフィスアワーは、毎週火曜日、時間：15:00-16:00で科目責任者の研究室で対応します。
学習指導法の工夫	
授業改善の特記事項	テキスト内容を補充・説明する資料を配布する。 授業内容と保健師国家試験の過去問題との関連を伝達する。
備　考	学生は次回使用のテキスト箇所および資料内容を読み、準備して授業に臨む。 ・本科目は原則として1コマあたり最低90分ずつの予習と復習が必要です。 ・事前課題レポートを指定された日時に提出すること。 ・本科目は原則として成績不良者への学期末試験の再試験は行いません。

科　目 コード		授業 科目	クリティカルケア看護演習 (Critical care Seminar)	担当 教員	○大城真理子　謝花小百合 宮城裕子 実務経験：あり

開講年次	3年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演　習
選択必修	必　修	時間数	30時間				

履修条件		
	前提科目	生活援助・療養援助実習　生活援助・療養援助技術Ⅲ クリティカルケア看護
	その他	なし

授業概要	クリティカルケア看護を踏まえ、侵襲性の高い治療を受ける対象についてのアセスメントおよび根拠に基づいた看護を行う基本的能力を学修する。
到達目標	1. クリティカル状況にある対象への基本的な看護援助技術を習得できる。 2. 周手術期にある対象への基本的な看護援助技術を習得できる。 3. 模擬事例を通して、周手術期の状況にある対象の病態生理・治療を理解し看護実践に必要な問題解決の能力（看護過程の展開）を習得できる。 4. がん治療に伴う侵襲性の高い治療（化学療法、放射線療法）を受ける対象への基本的な看護援助方法を習得できる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第１回	演習ガイダンス １.看護過程演習オリエンテーション　事前課題の確認、模擬事例を通しての情報の整理 ２．看護技術演習オリエンテーション	事前課題の確認、演習ノート配布	大　城	演　習
第2～6回	看護過程１　アセスメント　看護問題の抽出 看護過程 2～5　看護問題優先順位　看護計画立案 目標設定	事前課題の確認、事後課題は演習時に提示する。必要資料を配布する	〃	
第7・8回	急性状況下にある対象への看護技術１～2　BLS/ACLS(成人)	〃	大　城	
第9回	周手術期にある患者への基本的な看護援助 1 術前：外来（術前の看護援助） 術中：手術室（術中の看護援助）	〃	〃	
第10回	周手術期にある患者への基本的な看護援助 2 術後：一般外科病棟（術直後および術後の看護援助） 退院後：外来（退院後に必要な看護援助） 効果的な報告（ISBAR の活用）	〃	〃	
第11回	周手術期にある患者への基本的な看護援助 3 手術後の患者の全身状態の観察	〃	〃	
第12回	周手術期にある患者への基本的な看護援助 4 手術直後の患者への看護援助（全身観察、ドレーン管理）効果的な看護報告（ISBAR の活用）	〃	〃	
第13回	周手術期にある患者への基本的な看護援助 5 術後１～2 日目の看護援助　退院指導	〃 周手術期の対象に対する観察と看護援助を練習し、各自ビデオに収録し教員へ提出する	〃	
第14回	侵襲性の高い治療（薬物療法、放射線療法）を受ける対象への基本的な看護援助	事前課題の確認、事後課題は演習時に提示す	謝　花	

第 15 回	クリティカルケア看護における知識確認（小テスト）および解答解説/ディスカッション（45 分） 実習オリエンテーション（45 分）	る。必要資料を配布する。 知識確認の解答および質疑応答など討議を通して知識を深める。	大　城	
テキスト	クリティカルケア看護演習ノート、学生の学びを深めるための資料配布			
参考文献	・クリティカルケア看護論で使用したテキストと講義資料 ・林直子，佐藤まゆみ.(2019).成人看護学　急性期看護Ⅰ概論　周手術期看護．南江堂. ・石塚睦子．(2017)．よくわかる周手術期看護．Gakken. ・ナーシング・グラフィカ　成人看護学⑥：緩和ケア　第3版(2022).メディカ出版.			
他科目との関連	病態生理、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱ、ヘルスアセスメント、生活援助療養援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、クリティカルケア看護の関連科目の内容をふまえて学習を深める。			
成績評価の方法	事前課題 5%　演習中の課題 65%、知識確認（小テスト）20%　参加状況 10%			
学習相談・学習体制	各学生グループに担当教員がおり、毎回の授業の終了時に、理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を意見交換等で理解を図る。 全体に必要な事項は次回授業時に説明補充を行う。 オフィスアワーは、毎週月曜日、16:00-17:00、科目責任者の研究室にて対応する。			
学習指導法の工夫	少人数授業			
授業改善の特記事項	演習ノート、演習内容を補充・説明する資料を配付する。			
備　考	毎回の事前課題レポートを指定された日に提出すること。 演習後のレポートは指定された日時までに提出すること。 自己学習を含め主体的に演習に望むことが必要である。 演習中に行った看護技術に関しては、各自練習し、指定された看護技術に関しては、ビデオで撮影して指定された日時に提出する。			

科　目 コード		授業 科目	クリティカルケア看護実習 (Critical care Practicum)	担当 教員	○謝花小百合　大城真理子 宮城裕子 実務経験：あり

開講年次	3年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	実　習
選択必修	必　修	時間数	45時間				

履修条件	前提科目	クリティカルケア看護演習
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B 型肝炎の抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していないものは、実習を履修することができない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。
授業概要		急性期や重症な状況にある人や周手術期にある人の身体的・心理社会的側面を理解し、対象のニーズに焦点をあてて、必要な理論的、臨床的基本、ならびに技術・態度を学修すると共に、関連職種間の連携・調整に必要な協働能力を身につける。
到達目標		1. 患者の人権を尊重した態度でかかわり、援助することができる。 2. 生活者としての急性期や重症な状況にある患者やや手術療法を受ける患者の身体的・心理的・社会的な特徴について説明できる。 3. 急性期や重症な状況にある患者や手術療法を受ける患者を理解し、援助ができる。 4. 治療・検査を受ける対象の身体的・精神的・社会的状況を理解し、援助ができる。 5. 家族・近親者の抱く不安や役割を理解し、必要な援助ができる。 6. 関係職種間の連携について理解し、チーム医療における看護の役割について述べることができる。 7. 実践したことを振り返り、自己の学習課題を見いだすことができる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	指導教員
5 日間	1. 実習内容 1) 手術を受ける患者の術前・術中・術後の看護(手術室看護を含む) 2) がん患者の看護（薬物療法、緩和ケア） 2. 実習方法 1) 実習期間：5 日間（月から金曜日）祝日を除く 2) 実習時間：8:00-16:00 3) 実習施設：外科系病棟、外来、手術室 4) 実習の進め方 ・実習開始までに学生は事前に提示された課題(備考参照)にとりくむ。 ・実習初日、学生は施設の指導者から施設オリエンテーションを受ける。 ・学生は配置されたクラスの日課に沿って活動する中で、実習目標が達成できるよう、実習に取り組む。 ・学生は日々のカンファレンス、施設および学内報告会を運営し、互いの実習内容を共有することで理解を深める。 ・学生は実践の振り返りを通して自己の学習課題を明確にする。 ・学生は所定の実習記録を完成させ、指定の期日までに提出する。	謝　花 大　城 宮　城
テキスト	クリティカル・緩和ケア実習　実習の手引き	

参考文献	・クリティカルケア看護演習で使用したテキストおよび講義資料 ・林直子，佐藤まゆみ.(2019).成人看護学　急性期看護Ⅰ概論　周手術期看護．南江堂 ・石塚睦子．(2017)．よくわかる周手術期看護．Gakken. ・宮下光令．（2022）．ナーシング・グラフィカ　成人看護学⑥：緩和ケア第3版 メディカ出版. ・黒江ゆり子．(2018)．看護診断ハンドブック　第11版．医学書院
他科目との関連	看護活動を実施できる基礎的知識、技術および倫理的態度を学習するために、病態生理、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱヘルスアセスメント、生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生活援助・療養援助実習、クリティカルケア看護、クリティカルケア看護演習等の既習科目や実習の内容を統合している。
成績評価の方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に基づく評価（90%）、担当教員および科目責任者による実習への取り組みの評価（10%）の合計とする。実習の評価には全体オリエンテーションの参加状況も含まれる。連絡のない遅刻、欠席、早退、実習記録の未提出、その他、倫理的に問題があると思われる状況については大幅な減点となる場合がある。
学習相談・学習体制	実習では毎日のカンファレンスでグループごとに振り返りを行い、各自の学んだことについて発表しグループ全体で共有し、理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を全員で考え、翌日の実習展開をスムーズに行うように指導助言していく。
学習指導法の工夫	少人数授業
授業改善の特記事項	・実習指導上の問題は、早期に現場の師長や指導者と話し合い、双方が協力体制を構築し取り組む ・同時期に4～5施設に分かれて実習する。施設の特色や地域で果たす機能が異なる施設もあるため、最終日に学生間の学びを共有できるよう学内報告会を行う。
備　考	実習に望むにあたり、実習の手引き（クリティカルケア看護実習）の実習内容をよく読み、周手術期の看護に関して事前学習して望むこと。既習であるが実習で未経験の看護技術に関しては事前に学習し実習に備える。

科　目 コード		授業 科目	緩和ケア論 (Palliative Care)	担当 教員	○謝花小百合　大城真理子 実務経験：あり

開講年次	3年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講　義
選択必修	必　修	時間数	15時間				

履修条件		
	前提科目	なし
	その他	なし

授業概要	生命を脅かす疾患による問題に直面している人及び人生の最終段階にある人とその家族の身体的側面、心理的側面、社会的側面、スピリチュアル側面の特徴を学修し、苦痛の予防と緩和に関する看護実践を学修する。全人的なケアのための基本的な知識と、援助的関係の形成や多職種との連携・協働に必要な技術・態度を学修する。
到達目標	1. 人生の最終段階（エンドオブライフ）を生きる人の病状およびその家族の特徴を説明することができる。 2. エンドオブライフを生きる患者やその家族の全人的苦痛を説明することができる 3. エンドオブライフを生きる患者やその家族の全人的苦痛の緩和ケアや QOL を支援する看護援助について説明できる。 4. 臨死期にある人やその家族について最善のケアを導く方法を説明できる。 5. エンドオブライフを起きる患者を取り巻く家族、社会を全体としてとらえ、患者・家族にとって最善のケアを導くための専門職と連携・協働するための方法を説明できる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第１回	緩和ケアの概念	テキスト. pp. 20-56	謝　花	講　義
第２回	身体的苦痛症状の看護（疼痛緩和など）	テキスト. pp. 58-166	大　城	
第３回	身体的苦痛症状の看護（呼吸困難,倦怠感など）	〃	〃	
第４回	心理社会的苦痛症状の看護（スピリチュアルケア含)	テキスト. pp. 168-252	謝　花	
第５回	症状緩和のための補完代替療法	テキスト.pp. 89-90 配布資料	〃	
第６回	在宅緩和ケア　多職種連携	テキスト. pp. 254-278 配布資料	〃	
第７回	終末期における患者のステージとケア 終末期における倫理的問題	テキスト. pp. 280-300, pp. 330-347 配布資料	〃 〃	
第８回	家族・遺族への看護ケア	テキスト. pp. 302-316 配布資料	〃	
第９回	期末試験			

テキスト	1.　宮下光令.（2022）. ナーシング・グラフィカ　成人看護学⑥緩和ケア.　第3版. メディカ出版
参考文献	・科目開講時に紹介する
他科目との関連	病態生理、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱ、ヘルスアセスメント、生活援助療養援助技術Ⅰ・Ⅱの関連科目の内容を踏まえて学習を深める。
成績評価の方法	事前課題レポート・講義時に提示する課題レポート（40%）、テスト（60 %）で評価を行う。

学習相談・学習体制	毎回の授業終了時に，理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を記載した出席カードの提出をもとめ、次回授業時に補足説明，意見交換等で理解を図る。オフィスアワーは、毎週火曜日　10：30－11：30
学習指導法の工夫	多様なメディアの活用
授業改善の特記事項	テキスト内容を補充・説明する資料を配布する。 授業内容と保健師国家試験の過去問題との関連を伝達する。
備　考	・学生は次回使用のテキスト箇所および資料内容を読み、準備して授業に臨む。 ・本科目は原則として1コマあたり最低90分ずつの予習と復習が必要です。 ・事前課題レポートを指定された日時に提出すること。 ・本科目は原則として成績不良者への学期末試験の再試験は行いません。

科　目 コード		授業 科目	保健看護包括実習 （　）	担当 教員	○田場由紀　他 実務経験：あり

開講年次	2年次 前期	単位数	3単位	科目 分類	専門関連科目 (保健師課程・看護師課程)	授業 形態	実　習
選択必修	必　修	時間数	135時間				

履修条件	前提科目	なし
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。
授業概要		地域で生活している健康な人々に焦点を当て、地域に根ざした包括的な保健看護の活動を学修する。実習を展開する地域の地区アセスメントを行い、地域に住む様々な発達段階にある対象に出会い、コミュニケーションをとることで、生涯発達の視点から発達課題、健康課題、家族・地域・社会におけるフォーマル、インフォーマルなつながりや役割を理解する。また、生活者の視点から、看護職者の役割に加え、地域の社会資源が地域の人々の生活にどのように活用されているかを学修する。
到達目標		1.「健康の連続性」及び「地域で生活する人々の健康課題に対する構え」等の健康に関する概念を前提とし、対象への関心と個人として尊重した態度を示すことができる。 2.実習を展開する地区の特性を捉えるための情報収集、地区踏査を実施し、地域の特徴として地域の強みを述べることができる。 3.地域に住む様々な発達段階にある対象と関わり、発達課題と健康課題の関係、他者とのつながりや地域における対象の役割を学ぶ。 4.地域における保健看護活動の拠点としての保健医療福祉関係機関について学び、地域住民と保健医療福祉専門職との協働連携の実際を学ぶ。 5.健康生活を支える看護職者の役割ついて、生活者の視点から考察する。 6.一連の実習で経験したことをふり返り、自己の学習課題を述べることができる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	指導教員
15日間	1.　実習内容 1日目 ＜共通＞ 1）科目オリエンテーション（健康の連続性、地域で生活する人々の健康課題に対する構えの概念を学ぶ） 2）実習における行動計画の立案と地区情報の収集 2～9日目 ＜子育て支援センター、こども園・保育園、児童センター、地域包括支援センター、老人福祉センターなど＞ 3)活動概要と施設オリエンテーション 4)中学校圏域において保健看護活動を展開する保健医療福祉機関の活動見学 5)個別支援への参加・同行 6)集団支援への参加・同行 7)中学校圏域における互助活動の情報収集 8)学生の関心によって対象（母・小児・成人・老人）を1事例選定、生活における健康課題への取り組みの学び 9)個別事例の報告会 10～14日目 ＜健診センター、障害者自立支援事業所など＞ 10）活動概要と施設オリエンテーション 11）広域を管轄し、専門的な保健看護活動を展開する保健医療福祉機関の活動見学 12）個別支援への参加・同行 13）集団支援への参加・同行 14）学生の関心によって対象（母・小児・成人・老人）を選定し、精神保健看護および地域保健看護の観点から、専門職による健康課題への取り組みの学び 15）個別事例の報告会	未定

	15 日目 ＜まとめ＞ 16）地域における包括的な保健看護活動について、具体的な学びをグループで討議 17）グループ毎に学びをまとめ、全体報告会で共有 ２．実習方法 1)実習期間：15 日間（毎週金曜日）、祝祭日を除く 2)実習時間：8 時 30 分～17 時 3)実習施設：那覇市地域包括支援センター、那覇市老人福祉センター、那覇市子育て支援センター、こども園・保育園、那覇市児童センター、健診センター、障害者自立支援事業所など 4)実習のすすめかた ・14 グループで展開する。 ・生涯発達看護科目教員が実習グループを担当し、学生の実習における行動計画の立案を補佐する。 ・精神保健看護担当教員、地域保健看護担当教員は広域管轄の保健看護活動における指導を担当する。 ・実習の共通とまとめは、地域保健看護担当教員が担当する。	

テキスト	保健看護包括実習の手引き
参考文献	・上田礼子，（2005）. 生涯人間発達学，改定第 2 版，三輪出版. ・そのほか、適宜紹介する
他科目との関連	島嶼・国際保健看護実習に引き続き生活者の視点を学び、保健看護の概念を理解するための基盤とする。本科目は保健師課程・看護師課程の読み重ね科目である。
成績評価の方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。
学習相談・学習体制	実習中は毎日開始前と終了時にカンファレンスを実施し、学びの内容や互いの課題を共有し、教員、学生とで解決に取り組む。
学習指導法の工夫	少人数授業
授業改善の特記事項	
備　考	本科目は、看護師課程「臨地実習」の『基礎看護学』『地域・在宅看護論』『成人看護学』『老年看護学』『小児看護学』『母性看護学』『精神看護学』及び保健師課程「個人・家族・集団・組織の支援実習」「公衆衛生看護活動展開論実習」の内容を含む。

科　目 コード	36124	授業 科目	精神保健看護Ⅰ (Mental Health and Psychiatric Nursing Ⅰ)	担当 教員	○大川嶺子　上里さとみ 実務経験：あり

開講年次	2年次 前期	単位数	1　単位	科目 分類	専門関連科目 (保健師課程・看護師課程)	授業 形態	講　義
選択必修	必　修	時間数	15　時間				

履修条件		
	前提科目	なし
	その他	なし

授業概要	心の発達や健康について発達段階や社会生活の面から理解し、メンタルヘルス上の問題の予防、早期発見（災害時のケアを含む）の方法を学修する。また、心の発達や健康を保持増進するための発達段階ごとの特徴と疫学的動向及び対策について学修する。また、精神看護の基本的な概念、歴史的変遷を理解し、精神看護の役割と機能を学修する。
到達目標	1. 現代社会における精神の健康・不健康の動向と対策について述べることができる。 2. 生活の場及びライフサイクルにおける精神保健上の問題、および災害看護を含む危機時における精神保健について述べることができる。 3. 欧米や沖縄を含む日本における精神保健福祉の沿革と歴史について理解し、精神障害者に対する自己の偏見について述べることができる。 4. 精神看護の定義と役割・機能について述べることができる。 5. 精神障害者の社会生活への支援について述べることができる。 6. 地域精神保健活動の意義および制度等について述べることができる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第1回	精神の健康と不健康の動向と対策	テキスト：pp. 2-25、181－223	大　川	講　義
第2回	生活の場及びライフサイクルと精神保健①	テキスト：pp. 121-139		
第3回	生活の場及びライフサイクルと精神保健②	〃		
第4回	危機時における精神保健	テキスト：pp. 149-170		
第5回	精神保健医療福祉の沿革と歴史	テキスト：pp. 225-273		
第6回	精神障害者への偏見と権利擁護	テキスト：pp. 265－273 精神障害者の人権に関する映像の視聴		
第7回	地域精神保健看護活動と制度・資源の活用	テキスト：pp. 140-147	上　里	
第8回	精神障害者の社会生活の支援	別途資料配付	大川	
第9回	期末テスト			

テキスト	・岩崎弥生・渡辺博幸編.　(2021).　新体系看護学全書. 精神看護学①　精神保健学概論/精神保健. 第６版. メヂカルフレンド社.
参考文献	・国民衛生の動向(最新版). 厚生統計協会 ・我が国の精神保健福祉(最新版). 精神保健福祉研究会
他科目との関連	現代社会の精神保健の課題を学ぶために、沖縄の生活と文化、家族社会学演習、ストレスマネジメントと健康教育が役に立ちます。心理学、人間関係論、臨床心理学は人の心の理解に役立ちます。本科目は保健師課程・看護師課程の読み重ね科目である。
成績評価の方法	小テスト・レポート（50%）、および期末試験（50%）で評価を行う

学習相談・学習体制	オフィスアワー：講義期間中の火曜日5限目、207研究室で対応する。
学習指導法の工夫	対話型授業
授業改善の特記事項	授業参加を活発化するために学生の意見や感想を求めてきたが、学生間ディスカッションも取り入れて発言を促進する。
備　考	質問する、教員の質問に答える、学生間で意見を交わすなどの積極的な授業参加を期待します。学んだことを自身の実生活に反映させてほしい。 ・本科目は、看護師課程「精神看護学」及び保健師課程「個人・家族・集団・組織の支援」「疫学」の内容を含む。

科　目 コード	36125	授業 科目	精神保健看護Ⅱ (Mental Health and Psychiatric NursingⅡ)	担当 教員	○大川嶺子　上里さとみ 仲本勉 実務経験：あり

開講年次	3年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講　義
選択必修	必　修	時間数	30時間				

履修条件		
	前提科目	なし
	その他	なし

授業概要	心の健康について、発達課題と心の危機的状況ならびに主な精神疾患について学び、本人及び家族、関係者への支援について学修する。また、治療を必要とする対象の入院中から退院、地域生活支援など回復段階に応じた看護について、予防、早期発見、治療、リカバリーを当事者の強みを活かしながら支援するために必要な看護実践を学修する。
到達目標	1. 精神看護の考え方、精神を病む人の理解と基本的対応について説明できる。 2. 精神看護に用いる理論・モデル・技法について説明できる。 3. 主な精神疾患および精神症状のアセスメントと看護について説明できる。 4. 知的障害・発達障害の背景のある精神障害者への看護について説明できる。 5. 精神科における治療的環境と、退院に向けての支援、当事者活動について説明できる。 6. 治療および退院支援におけるチーム医療について説明できる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 (学習課題)	担当教員	授業形態
第1回	精神看護の基本（接近の基本、観察・記録の基本）	事前：テキスト①序章-Ⅳ、テキスト②1・5章、 事後：理解度小テスト	大　川	講　義
第２回	精神看護に用いる理論・モデル（１） 精神看護の基盤となる理論	事前学習：テキスト①2章・3章 事後：理解度小テスト	〃	
第３回	精神看護に用いる理論・モデル（２） 精神看護の理論	事前：テキスト①５章、序章-ⅢC 事後：理解度小テスト	〃	
第４回	アセスメントの視点と方法（１）	事前：テキスト②6章 事後：理解度小テスト	〃	
第５回	アセスメントの視点と方法（２）	事前:テキスト②6章Ⅰ～Ⅲ 事後：理解度小テスト	〃	
第６・７回	精神疾患患者の症状と看護（１） 統合失調症を中心に①②	事前：疾病論の統合失調症部分の復習、テキスト②3章Ⅱ-B、７章Ⅱ-A,B 事後：理解度小テスト	〃	
第８回	精神疾患患者の症状と看護（２） 気分障害を中心に	事前：疾病論の気分障害部分の復習、テキスト②　3章Ⅱ-C,D 事後：理解度小テスト	〃	
第９回	精神疾患患者の症状と看護（３） アディクション看護を中心に	事前：テキスト①6章Ⅱ　-I～L,テキスト②7章Ⅱ-E 事後：理解度小テスト	大川･ｹﾞｽﾄ	
第10回	精神疾患患者の症状と看護（４） 神経症性障害の看護を中心に	事前：テキスト②3章Ⅱ 事後：理解度小テスト	仲　本	
第11回	知的障害・発達障害を背景に持つ方への看護	事前：疾病論の知的障害・発達障害の復習、テキスト②3章Ⅱ-A、7章 Ⅲ事後：理解度小テ	大川･ｹﾞｽﾄ	

第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 第 16 回	精神科における治療環境、行動制限、医療安全 精神科における退院支援、チーム医療 リカバリーと当事者活動　家族会、当事者会、ピアによる支援 心と体のつながりと精神看護・医療の役割 身体疾患と心の健康、リエゾン精神看護 期末試験	スト 事前:テキスト①7 章Ⅱ～Ⅲ、テキスト②7 章Ⅰ 事後：理解度小テスト 事前: テキスト②8 章 事後：理解度小テスト 事前:テキスト①序章Ⅲ-C、テキスト②4 章Ⅲ 事後：理解度小テスト 事前:テキスト②9 章Ⅰ テキスト①序章-Ⅱ 事後:理解度小テスト	仲本･ｹﾞｽﾄ 上里･ｹﾞｽﾄ 大川･ｹﾞｽﾄ 〃	
テキスト	1. 岩崎弥生・渡辺博幸編. (2019). 新体系看護学全書. 精神看護学① 保健学概論/精神保健. 第5版、メジカルフレンド社. 2. 岩崎弥生・渡辺博幸編. (2019). 新体系看護学全書. 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護. 第5版、メジカルフレンド社.			
参考文献	・中井久夫・山口直彦著. (2004) 看護のための精神医学第 2 版. 医学書院. ・川野雅資編集. (2011) . 新看護観察のキーポイントシリーズ 精神科Ⅰ第 1 版. 中央法規出版. ・川野雅資編集. (2011) . 新看護観察のキーポイントシリーズ 精神科Ⅱ第 1 版. 中央法規出版.			
他科目との関連	「人間関係論」で学んだカウンセリング技術（対象の話を聴く技術)、「臨床心理」で学んだ心理検査（対象を理解するツール)、「疾病論」で学んだ精神神経疾患の知識、「臨床薬理」で学んだ神経に作用する薬の知識を基盤にして、症状と看護を中心に学びます。 上記科目を復習しながら授業に参加するとよいです。			
成績評価の方法	①課題・小テスト（50%）、②期末試験（50%）で評価を行う。			
学習相談・学習体制	オフィスアワー：毎週木曜日5限目、207研究室で対応する。			
学習指導法の工夫	多様なメディアの活用			
授業改善の特記事項	具体例を示した、イメージしやすい授業			
備　考	テキストの該当ページを読んで授業に参加すること			

科　目 コード	36126	授業 科目	精神保健看護演習 (Mental Health and Psychiatric Nursing Seminar)	担当 教員	○上里さとみ　大川嶺子 仲本勉 実務経験：あり

開講年次	3年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演　習
選択必修	必　修	時間数	30時間				

履修条件		
	前提科目	生活援助・療養援助実習　精神保健看護Ⅰ　精神保健看護Ⅱ
	その他	なし

授業概要	精神障害のある対象の急性期及び慢性期、及びリハビリ期の看護に必要な技術と看護過程を展開する方法について学修する。また、対象とその家族の権利を守るために、最低限必要な知識、技術及び態度について学修する。
到達目標	1. 精神障害者や精神的な健康問題をもつ人への看護に必要な知識と技術について記述できる。 2. 急性期及び慢性期の基本的な精神科看護について記述できる。 3. 精神科看護におけるセルフケア行動の支援について記述できる。 4. 実習対象の権利を守るために、最低限必要な知識、技術および態度について述べることができる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第1回	事前課題の報告とディスカッション (1) 精神疾患 (動向、症状、回復過程、治療、看護) 、症状とケア	事前：個別にテーマの異なる課題を課す	上里・仲本	演　習
第2回	事前課題の報告とディスカッション (1) 続き 看護理論・看護過程、身体合併症の看護	〃	〃	
第3・4回	精神症状・障害のある人のアセスメントと対応 ロールプレイ	事前：事例を読みアセスメントする	〃	
第5回	プロセスレコードの書き方、検討方法		上里	
第6回	事前課題の報告とディスカッション (2) 副作用と安全管理、医療観察法下の看護	事前：事例の看護展開を課す	〃	
第7回	事前課題の報告とディスカッション (2) 続き 治療法、精神的健康のアセスメント	事前：個別にテーマの異なる課題を課す	〃	
第8～10回	オレム･アンダーウッドモデルに沿った自己決定支援のプロセス	〃 事前：事例の看護展開を課す	大川	
第11回	事前課題の報告とディスカッション (3) リカバリー関連理論、意思決定・自己決定支援、退院支援・地域移行	事前：個別にテーマの異なる課題を課す	〃	
第12回	事前課題の報告とディスカッション (3) 続き 社会資源、権利擁護、看護師のメンタルヘルス	〃	〃	
第13回	精神症状・障害のある人への対応のバリエーション （ロールプレイからの学び）	事前：対応の基本の復習	上里・仲本	
第14・15回	知的障害・発達障害を持つ人への対応 自己評価、面談	事前：授業を復習し、配布事例を読みこむ	大川	
第16回	試験			

テキスト	1. 岩崎弥生・渡辺博幸編. (2021). 新体系看護学全書. 精神看護学① 保健学概論/精神保健. 第6版、メヂカルフレンド社. 2. 岩崎弥生・渡辺博幸編. (2021). 新体系看護学全書. 神看護学② 精神障害を持つ人の看護. 第6版、メヂカルフレンド社.

参考文献	・中井久夫・山口直彦著.　(2004) 看護のための精神医学第2版. 医学書院. ・川野雅資編.　(2011) . 新看護観察のキーポイントシリーズ　精神科Ⅰ第1版. 中央法規出版. ・川野雅資編.　(2011) . 新看護観察のキーポイントシリーズ　精神科Ⅱ第1版. 中央法規出版.
他科目との関連	「人間関係論」で学んだカウンセリング技術（対象の話を聴く技術)、「臨床心理」で学んだ心理検査（対象を理解するツール)、「疾病論」で学んだ精神神経疾患の知識、「臨床薬理」で学んだ神経に作用する薬の知識を基盤にし、精神保健看護Ⅱで学んだ症状と看護の知識を活用して、精神障害を持つ方々と関係を構築し、日常生活の支援を行う方法について学びます。
成績評価の方法	事前課題・参加状況・課題・小テスト（80%）、　期末試験（20%）で評価を行う。
学習相談・学習体制	オフィスアワー：授業終了後18時まで、科目担当者の研究室で対応する。
学習指導上の工夫	少人数授業
授業改善の特記事項	個人ワークとグループワークを組み合わせて学生が相互に学びあえる工夫をする。
備　考	・夏休みに事前課題を課す。事前課題は指定の期日までに提出し、一部を演習中に報告する。 ・グループワークが進展するよう、積極的に参加してほしい。

科　目 コード	36134	授業 科目	精神保健看護実習 (Mental Health and Psychiatric Nursing Practicum)	担当 教員	○上里さとみ　仲本勉 大川嶺子 実務経験：あり

開講年次	3年次 後期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目 (保健師課程・看護師課程)	授業 形態	実　習
選択必修	必　修	時間数	90時間				

履修条件	前提科目	精神保健看護演習
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。
授業概要		施設で療養している、または、精神に障害を持ちながら地域で生活している人々を対象に、対象の全人的な理解の方法及び回復段階に応じた看護技術を習得し、当事者及び関連職種との連携に必要な協働能力を学修する。
到達目標		1. 精神科病院のもつ特殊性を理解し、対象を尊重した関わりができる。 2. 対象を生活史や家族背景から理解し、対象の抱える問題とそれらとのつながりについて包括的に捉える事ができる。 3. 精神症状および精神障害が対象の日常生活行動・対人関係などに与える影響について捉え、記述することができる。 4. 対象との関係性の構築について理解し記述することができる。 5. 集団（患者・医療従事者）の持つダイナミックスについて理解ができる。 6. 対象の生活史や家族背景と、対象の抱える問題の包括的理解に基づいて対象のニーズを捉え、看護を計画・実践・評価できる。 7. 退院および地域生活継続のための支援を通して関係職種との連携・調整の実際を体験し、看護の役割を述べることができる。 8. 実践したことを振り返り、自己の学習課題を見いだすことができる。

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	指導教員
10日間	1. 実習内容 1) 精神科病院環境の特殊性 2) 精神症状のある人の入院時の看護 3) セルフケア能力向上に向けての看護 4) 患者を中心とした家族・関係職種との連携調整 5) 退院支援 2. 実習方法 1) 実習期間：10日間 2) 実習時間：原則として8:30～16:30 3) 実習施設：精神科病院 4) 実習の進め方 (1) １名の患者を受け持ち、セルフケア向上のための関りを行う (2) 受け持ち患者で体験できない事については、学生間で体験を共有する。特に退院支援に関する連携・調整についてはカンファレンスで取り上げて共有する。 (3) プロセスレコードを作成し、自己の看護場面の振り返りを行う (4) 保護室、開放病棟又は閉鎖病棟、外来、デイケア等の見学を行う (5) 薬剤部、作業療法部等の臨床講義を受ける (6) 病棟実習最終日に実習病棟で報告会を行う (7) 実習最終日に学内でグループ討議、及びまとめを行う	上　里 仲　本 大　川

テキスト	「実習の手引き（精神保健看護実習）」
参考文献	・川野雅資編集．（2011）．新看護観察のキーポイントシリーズ　精神科Ⅰ第1版．中央法規出版． ・川野雅資編集．（2011）．新看護観察のキーポイントシリーズ　精神科Ⅱ第1版．中央法規出版． ・中井久夫・山口直彦著．（2004）看護のための精神医学第2版．医学書院．
他科目との関連	疾病論、臨床薬理、臨床心理は、診断・治療についての基礎的知識ですので、復習して実習に臨んでください。患者さんとの関係性構築には、人間関係論で学んだカウンセリング技術を復習し、精神保健看護演習でのグループワークを活用してください。 本科目は保健師課程・看護師課程の読み重ね科目である。
成績評価の方法	施設実習指導者・実習指導教員の情報等を参考に、実習態度･カンファレンスへの参加状況（20%）、実習記録･レポート等の諸記録（80%）で、科目担当教員が総合的に評価する。
学習相談・学習体制	毎日、実習開始前、実習終了後に実習先で相談を受ける。
学習指導上の工夫	少人数授業
授業改善の特記事項	演習で学んだことが、より実習に活かせるよう個別指導を工夫する。
備　考	疑問点は、実習指導教員・実習指導者に積極的に質問・確認しながら、実習を進めてください。 ・本科目は、看護師課程「臨地実習」の『精神看護学』及び保健師課程「公衆衛生看護活動展開論実習」の内容を含む。

科　目 コード	37124	授業 科目	地域保健看護Ⅰ (Community Health Nursing　Ⅰ)	担当 教員	○牧内忍　知念真樹 実務経験：あり

開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目 (保健師課程)	授業 形態	講　義
選択必修	必　修	時間数	15時間				

履修条件		
	前提科目	なし
	その他	なし

授業概要	地域保健看護（公衆衛生看護）の概念、歴史、基本理念、活動の場と対象、活動の展開方法と技術等の概要を学び、地域保健看護（公衆衛生看護）の機能と保健師の役割について理解する。また、地域における人々の健康状態の疫学的動向と対策および、生活と健康の関連性を理解し、対象の特性をふまえた看護支援のための視点について学修する。
到達目標	1. 地域における健康問題の出現過程と地域環境や人々の生活との関連性が理解できる。 2. 公衆衛生看護活動の目的と対象、活動展開における基本的な理念が理解できる。 3. 公衆衛生看護過程と活動に用いられる方法・技術について理解できる。 4. 公衆衛生看護活動の場と保健師の機能について理解できる。

講義回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前･事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第1回	健康問題と公衆衛生看護の概念 1.公衆衛生看護と地域看護の概念 2.健康問題の変遷と法律 3.プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション 4.保健師活動の概念と予防活動 レポート：保健師の活動（月刊「地域保健」より）	テキストp.4-21, 29-37,86-100, レポート(次回提出)	牧　内	講　義
第2回	地域アセスメント＜地域診断＞ 1.地域診断の目的　p.103 2.地域診断の理論 p.110-111 3.地域診断のプロセス p.114 4.地域診断の方法と実際 5.地域診断－沖縄県－ 6.健康課題の解決方法（多職種との連携） 地域保健看護実習Ⅰについて	テキストp.103-123	知　念	
第3回	公衆衛生看護の歴史と教育 1.諸外国の公衆衛生看護の変遷 2.日本の公衆衛生と公衆衛生看護の変遷 3.沖縄県の保健師駐在制度 4.保健師教育の変遷	テキストp.22-29, p.38-43,p.514-520	牧　内	
第4回	公衆衛生看護活動の対象および場と制度 1.活動対象：地域社会を構成する要素、個人・家族、グループ、組織、地域 2.活動の場： 1）公衆衛生看護行政と保健師の役割 2）学校保健と養護教諭の役割 3）産業保健と産業保健師の役割 3.公衆衛生看護活動の場における看護従事者の現状	テキストp.51-59	〃	
第5回	公衆衛生看護活動の方法と技術－１ 公衆衛生看護活動の方法と技術－２	テキストp.61-71	〃	
第6回	沖縄県の保健師活動の現状	テキストp.18,86-100	〃	
第7回		沖縄県の保健師活動	非常勤 (看護専門官)	
第8回	公衆衛生看護管理と倫理	テキストp.503-513, p.523-531	牧　内	
第9回	期末試験		〃	

テキスト	1.荒賀直子,後閑容子.(2020).公衆衛生看護学.jp第5版.インターメディカル
参考文献	・井伊久美子、勝又浜子、森永裕美子.(2020).保健師業務要覧 2021 年版 新版第４版.日本看護協会出版会 ・地域保健（月刊地域保健）.東京法規出版
他科目との関連	疫学と保健医療情報、人間関係論、生涯人間発達論、看護専門職論Ⅰ、ヘルスアセスメント等の既習科目の内容を統合し、公衆衛生及び地域における看護活動の概要を認識して､地域保健看護Ⅱ、Ⅲ、地域保健看護演習への導入とする。
成績評価の方法	授業参加状況（20%）、筆記試験（70%）、レポート（10%）で評価する。
学習相談･学習体制	出席・所感票に講義内容の疑問点などの記載を求め、必要時、掲示等により案内し、次回以降の講義で補足する。また、研究室に教員の予定表を掲示し、相談しやすいように配慮する。原則、木曜日4・5限目を学生の質問・相談に対応するオフィスアワーとし、220研究室で対応する。必要に応じてZoom等での遠隔相談も受け付ける。
学習指導法の工夫	多様なメディアの活用
授業改善の特記事項	公衆衛生看護のアウトラインが理解できるように具体例を用いて講義を展開する。
備　考	・日々、新聞などから地域住民（生活者）の保健行動、健康問題等に関心をよせ、公衆衛生看護の視点で対策を考える。 ・事前にテキストの該当ページを読み、主体的に授業に参加する。

科　目 コード	37125	授業 科目	地域保健看護Ⅱ (Community Health NursingⅡ)	担当 教員	○知念真樹　牧内忍 長濱直樹　未定 実務経験：あり

開講年次	2年次 後期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目 (保健師教育課程)	授業 形態	講　義
選択必修	必　修	時間数	30時間				

履修条件		
	前提科目	なし
	その他	なし

授業概要	地域における個人・家族、集団の健康現象の分析から健康問題を明らかにし、解決のための地域保健看護（公衆衛生看護）活動計画を立案･実施･評価する一連の過程に必要な知識と技術を学修する。また、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、地域診断等の理念と方法を学修する。
到達目標	1. 健康現象の分析から地域の健康問題を明らかにする過程が理解できる。 2. 地域診断の意義と診断過程、必要な知識と技術が理解できる。 3. ヘルスプロモーションの進め方と使われるモデル、活動に用いるスキル等が理解できる。 4. 対象のニーズに合わせた活動計画を策定、行政施策に繋げるプロセスが理解できる。 5. 保健事業計画から集団支援、個別支援の計画・評価のプロセスが理解できる。

講義回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前･事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第1回	1.科目オリエンテーション 2.地域保健活動（公衆衛生看護活動）と地域アセスメント（地域診断） 3.地域セスメント(地域診断）と保健活動ニーズの明確化		知　念	講　義
第2・3回	4.地域全体の特性の把握（地区/地域カルテで地域を見てみよう）課題レポート（地域アセスメント、健康課題とその解決策）	事前:地域保健看護実習Ⅰの記録を再度見直し、思い出しておく 事前:前回の講義のグループワークで自分のグループで出てきた健康課題とそのアセスメントなどについて､他の人に５分で説明できるよう、整理しておく。 事後:第３回のグループで出した地域アセスメントと健康課題､その解決策について､グループでレポートを提出する。提出期限は講義で指定する。	知念･牧内他教員	講義+演習
第4回	地方自治体における計画策定・施策化・事業化と予算の仕組み	事前：公衆衛生看護学.jp 第５版　p143-p151 を事前に読んでおくこと	知　念	講　義
第5回	計画策定・施策化に活用できる概念モデルと健康行動理論①	。	知　念	講　義
第6回	計画策定・施策化に活用できる概念モデルと健康行動理論②	〃	〃	〃
第7回	地域の課題解決に向けた事業化 （PPM を使った事業化）	事前：各グループの資料を事前に見て評価し	知念・牧内･他教員	講義＋演習

		ておく。(詳細は第６回の講義で説明) 事後：各グループの作業状況に応じ、空時間で作業を進めること。	〃	
第8回	地域の課題解決に向けた事業化 （PPM を使った事業化と展開図の作成） 課題レポート（PPM の図と展開図）	〃	〃	〃
第9・10回	地域の課題解決に向けた事業化 （展開図から事業実施要項と予算書の作成）	〃	〃	〃
第11回	地域の課題解決に向けた事業化代表プレゼンテーション 課題レポート（事業実施要項、予算書） (代表に選ばれたグループは加点あり!)	事前：他のグループの事業実施要項、予算書を読んで評価しておくこと	〃	〃
第12回	地域アセスメント（地域診断）と地域保健活動計画（保健師活動のための計画)(地域保健活動計画、集団支援・個別支援の計画）課題レポート	事前：公衆衛生看護学.jp第5版p136-p151を読んでおくこと	牧　内	講義+演習
第13・14回	保健師活動のための計画の評価 (地域保健活動計画、集団支援・個別支援計画の評価法）課題レポート	事前：公衆衛生看護学.jp第5版p136-p151を読んでおくこと	牧内・知念・他教員	〃
第15回	科目全体のまとめと振り返り・科目を振り返るためのミニテストをします。 (評価には入れません)	事前：これまでの講義資料を見直しておきましょう	知　念	〃

テキスト	1. 荒賀直子.後閑容子.　(最新刊).　公衆衛生看護学.jp.　インターメディカル
参考文献	・エリザベス Ｔ．アンダーソン　(編集）,ジュディス・マクファーレイン　(編集）,金川克子　(監訳）,早川 和生　(監訳).(2007). コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際 第２版. 医学書院 ・守田孝恵（編著).(2012). 展開図でわかる「個」から「地域」へ広げる保健師活動. クオリティケア ・ローレンス W.グリーン　マーシャル W.クロイター　神馬征峰(訳).(2013).　実践ヘルスプロモーション　PRECEED-PROCEED モデルによる企画と評価.　医学書院 ・一般社団法人日本健康教育学会.(2019).健康行動理論による研究と実践.医学書院 ・厚生労働統計協会.(最新刊).国民衛生の動向.厚生労働統計協会
他科目との関連	地域保健看護Ｉ、地域保健看護実習Ｉの関連科目の他に沖縄の生活と文化、社会学、家族社会学演習、ストレスマネジメントと健康教育、精神保健看護Ｉ、および生涯発達看護科目のうち既習の科目の内容をふまえて学習する。
成績評価の方法	授業参加状況（20%）、グループ学習への貢献度（10%）、課題レポート（70%：10点×7回）で評価する。代表に選ばれたチームのメンバーには、3点づつ加算する。
学生相談・学習体制	毎週水・木曜日　13:30-17:30
学習指導法の工夫	その他：TBL（Team-Based Learning） 毎回の講義のテーマにそって、地域保健看護実習Ｉのグループで協同学習を行います。各グループでテーマごとにレポートを作成し、発表と提出を行います。
授業改善の特記事項	出席票に講義内容の疑問点などの記載をもとめ、次回の講義で補足説明する。
備　考	保健師活動を理解する上でコアとなる科目である。地域保健看護実習Ｉでのアセスメントの視点、健康問題などを想起し主体的にグループワーク、講義へ参加する

科　目 コード	37126	授業 科目	地域保健看護Ⅲ （Community Health Nursing Ⅲ）	担当 教員	○牧内忍　知念真樹 長濱直樹 田名彩子（非常勤） 金城祥子（非常勤） 実務経験：あり

開講年次	3年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目 （保健師課程）	授業 形態	講　義
選択必修	必　修	時間数	30時間				

履修条件		
	前提科目	なし
	その他	なし

授業概要	人々のセルフケアを助けるグループや地区組織を育成し、地域にネットワークを構築する過程、地域保健・学校保健・産業保健の場で展開されているヘルスケアシステムについて学修する。また、地域における健康危機管理、災害時の地域管理を含めた地域保健看護（公衆衛生看護）管理について学修する。
到達目標	1. 母子、障害者(児)、成人、高齢者、感染症、難病の健康課題の解決、健康増進に向けたヘルスケアシステムを法的根拠、保健計画、実践、評価の視点で理解できる。 2. 地域における組織化、地域ケアシステム、健康危機管理及び災害保健活動について理解できる。 3. 学校保健・産業保健の場で展開されているヘルスケアシステムについて理解できる。

講義回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 （学習課題）	担当者名	授業形態
第1回	Ⅰ健康課題、健康増進に向けたヘルスケアシステム 1. 保健計画および法的根拠に基づく各種別ヘルスケアシステム（保健所・市町村：健康増進、高齢者、障害、地域包括支援センター等へ配置） 2. 保健師活動指針（H25）と行政保健師の活動「保健師活動の展開図」使用 3. 市町村の保健活師動の実際	テキスト P157-164	牧　内	講　義
第2回	Ⅱ学校保健看護活動１（学校保健の概要） 1. 学校保健の役割と意義 2. 養護教諭の職務 3. リスクを持つ児童生徒への支援	テキスト P447-461	金城祥子 （非常勤）	
第3回	学校保健看護活動２（養護教諭の職務の実際） 1.　保健室運営 2.　健康診断と事後処理 3.　保健学習・保健指導 4.　対人管理 5.　健康教育の実際	テキスト P447-461	〃	
第4回	Ⅲ母子保健対策（歯科含む）とヘルスケアシステム 1. 母子保健計画、健やか親子 21 と市町村のヘルスケアシステム＊歯科保健活動含む 2. 母子保健活動の実際 1)未受診者訪問の事例 2)子育てのリスクをもつ親子への保健指導	テキスト P234-258	知　念	
第5回	Ⅳ成人保健対策（歯科含む）とヘルスケアシステム 1. 成人保健活動の実際 1)成人期に発症する疾患（脳血管疾患・心血管疾患、糖尿病、慢性腎疾患の発症と重症化予防と保健指導 2)治療可能な疾患（がん）の早期発見と早期治療と保健指導 3)歯周病予防と保健指導	テキスト P259-283	長　濱	
第6回	成人保健対策 （特定健康診査・特定保健指導） 1. 特定健康診査と特定保健指導の目的 2. 特定健診に関する保健活動の実際 3. 特定健診・特定保健指導と保健師の役割	テキスト P268-279	〃	

第7回	課題レポート１：特定健診データの読み取り（個人） Ⅴ高齢者保健対策とヘルスケアシステム 1.高齢者保健看護活動の理念と目的 2.高齢者の保健指導(認知症、フレイル・ロコモティブシンドローム) 3.独居・高齢者のみ世帯等、自立した生活を維持するための生活支援と介護予防(地域包括支援センターの機能・役割) 4.地域包括ケアシステムの具体例	テキスト P285-307	〃	
第8回	Ⅵ産業保健看護活動１（産業保健の法律・制度） 1.産業保健の定義・目的 2.産業保健組織と活動 3.職場のメンタルヘルス	テキスト P462-485	牧　内	
第9回	産業保健看護活動２（産業保健看護活動の実際） 1.産業保健における健康診査と関係法規 2.沖縄県の生活背景と健康課題 3.職場における健康問題 4.沖縄県の特定健康診査受診状況・特定保健指導実施状況 5.保健指導の実際（事例） 6.重症化予防事業について 7.健康管理	テキスト P462-485	田　名 (非常勤)	
第10回	産業保健看護活動３（産業保健看護の５管理） 1.産業衛生の管理と保健師活動 2.トータル・ヘルスプロモーション(THP)とワーク・ライフ・バランス 3.地域保健との連携 課題レポート２：産業保健関連法規から、１つを選択し、事例で説明する。	テキスト P462-485	牧　内	
第11回	Ⅶ健康危機管理と災害時の保健活動 1.健康危機管理の定義、目的 2.災害と保健活動 1）災害予防と事前対策 2）発災直後から応急対策期 3）災害復旧・復興対策期 4）放射線被爆・津波	テキスト P425-443	牧内・ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ	
第12回	Ⅷ障害者（児）保健対策とヘルスケアシステム（精神保健活動を中心に） 1.精神障害者対策の目的 2.精神保健活動の実際 3.精神保健対策と保健師の役割	テキスト P308-325	知　念	
第13回	Ⅸ難病対策とヘルスケアシステム 1.難病対策の現状と課題 2.難病対策の理念 3.難病保健施策の変遷と動向 4.難病保健活動の実際（地域ケアシステム）と保健師の役割 5.小児慢性特定疾患	テキスト P308-325	〃	
第14回	Ⅹ感染症対策とヘルスケアシステム 1.感染症保健活動の理念と保健師の役割（平常時・発生時） 2.結核に対する保健活動 1）結核対策（集団・個別） 2）日本版21世紀型ＤＯＴＳ 3）保健師の役割 3.結核の保健師活動の実際（家庭訪問事例）	テキスト P367-405	〃	
第15回	Ⅺグループ支援・組織化と地域ケアシステム 1.組織のアセスメントと支援 2.グループのアセスメントと支援 3.事業化・施策化及び地域（包括）ケアシステムの構築	テキスト P152-155	牧　内	
第16回	期末試験		牧　内	

テキスト	1.荒賀直子,後閑容子.(2020).公衆衛生看護学.jp　第5版.インターメディカル 2.勝又 浜子, 門脇 豊子, 清水 嘉与子.(2020).看護法令要覧 令和2年版.日本看護協会出版会 3.厚生の指標増刊.(2020).国民衛生の動向 2020/2021.厚生統計協会
参考文献	・井伊久美子、勝又浜子、森永裕美子.(2019).保健師業務要覧 ２０２０年版 新版第４版.日本看護協会出版会 ・地域保健研究会.(1972-2020).地域保健（月刊地域保健）.東京法規出版 ・学校保健マニュアル ・産業保健マニュアル
他科目との関連	「保健医療福祉制度」の法律と「地域保健看護Ⅰ・Ⅱ」の授業内容を関連づけて学習する。
成績評価の方法	授業参加状況（20%）、筆記試験（70%　期末）、レポート（10%）で評価する。
学生相談・学習体制	出席票に講義内容の疑問点などの記載をもとめ、次回の講義で補足説明する。また、研究室に教員の予定表を掲示し、相談しやすいように配慮する。原則、木曜日4・5限目を学生の質問・相談に対応するオフィスアワーとし、220研究室で対応する。
学習指導法の工夫	多様なメディアの活用
授業改善の特記事項	授業内容を具体的にイメージできるよう図表を多く用いる。また、関連する資料を配付し内容を補充する。授業内容と保健師国家試験問題の関連を解説する。
備考	幅広い保健師活動を分野毎の具体的なシステム（一連の保健事業）を通して学ぶ。

科　目 コード	37127	授業 科目	地域保健看護演習 (Community Health and Nursing Seminar)	担当 教員	○牧内忍　知念真樹 長濱直樹 実務経験：あり

開講年次	4年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目 (保健師課程・看護師課程)	授業 形態	演　習
選択必修	必　修	時間数	30時間				

履修条件		
	前提科目	生活援助・療養援助実習 地域保健看護Ⅱ 地域保健看護Ⅲ
	その他	なし

授業概要	学生相互のロールプレイやグループワークによって、家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査等の場における地域保健看護（公衆衛生看護）活動に必要な支援技術と活動の展開方法を具体的に学修する。
到達目標	1. 健康問題に対する個別支援(家庭訪問、健康相談)の計画・展開・評価について理解できる。 2. 健康問題に対する集団支援(健康教育、健康診査)の計画・展開・評価について理解できる。 3. 家庭訪問計画作成および健康教育指導案作成の準備を自主的に行うことができる。

講義回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 (学習課題)	担当者 名	授業形態
第1回	ライフサイクルと家族の理解	テキストp. 223-233	牧　内	講　義
第2回	個人・家族のアセスメント	〃	〃	〃
第3回	個人・家族支援の看護過程（アセスメント～実施計画立案）	〃	牧内・知念・長濱	講義+演習
第4回	個人・家族支援の看護過程　演習	〃	〃	演習
第5回	個人・家族支援の看護過程　発表	〃	〃	〃
第6回	健康相談の目的、対象、保健指導	テキストp. 181-187	知　念	講　義
第7・8回	健康相談　演習①②			
第9回	家庭訪問の目的、方法、保健指導	テキストp. 168-180	牧　内	講　義
第10回	家庭訪問　演習		牧内・知念・長濱	演習
第11・12回	家庭訪問ロールプレイ（グループ発表）			
第13回	乳幼児健康診査の目的、方法、保健指導	テキストp. 200-208	牧内・知念	講　義
	特定健康診査の目的、方法、保健指導	〃		
第14回	技術試験OSCE、実習の事前学習の説明		牧内・知念・長濱	講義+演習
	地域アセスメントに基づく健康教育テーマ設定	テキストp. 188-199		
第15回	OSCE(20分)			〃
第16回	期末試験（60分）			

テキスト	1. 荒賀直子, 後閑容子. (2020). 公衆衛生看護学. jp　第5版. インターメディカル 2. 勝又 浜子, 門脇 豊子, 清水 嘉与子. (2020). 看護法令要覧 令和2年版. 日本看護協会出版会 3. 厚生の指標増刊. (2020). 国民衛生の動向 2020/2021. 厚生統計協会
参考文献	・井伊久美子、勝又浜子、森永裕美子. (2019). 保健師業務要覧 2020 年版 新版第４版. 日本看護協会出版会 ・長江弘子、柳澤尚代. (2004). こう書けばわかる！保健師記録. 医学書院
他科目との関連	地域保健看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、地域保健看護実習Ⅰの科目の他に、保健医療福祉制度、生涯人間発達論、ヘルスアセスメント、生活援助・療養援助技術Ⅰ、生涯発達看護科目（母性・小児・成人・老年の保健看護Ⅰ）及びストレスマネジマントと健康教育等と関連づけて学習する。 本科目は保健師課程・看護師課程の読み重ね科目である。

成績評価の方法	授業参加状況（20%）、筆記試験（50%）、地域アセスメント（10%）およびOSCE試験（20%）で評価する。
学習相談・学習体制	出席票に講義内容の疑問点などの記載をもとめ、次回の講義で補足説明する。また、研究室に教員の予定表を掲示し、相談しやすいように配慮する。原則、木曜日4・5限目を学生の質問・相談に対応するオフィスアワーとし、220研究室で対応する。
学習指導法の工夫	少人数授業
授業改善の特記事項	講義内容が地域保健看護実習Ⅱで活用できるように、地域特性のある事例を用いて講義・演習を展開する。学生の所感票をもとに補足説明や方法の改善を行う
備　考	・本科目は、看護師課程「地域・在宅看護論」「看護の統合と実践」及び保健師課程「個人・家族・集団・組織の支援」「公衆衛生看護活動展開論」の内容を含む。

科　目 コード	37142	授業 科目	地域保健看護実習Ⅰ (Community Health Nursing PracticumⅠ)	担当 教員	○知念真樹　　牧内忍 長濱直樹　　未　定 実務経験：あり

開講年次	4年次前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目 (保健師課程・看護師課程)	授業 形態	実　習
選択必修	必　修	時間数	45時間				

履修条件	前提科目	地域保健看護Ⅰ
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。
授業概要		地域の文化や自然環境、自治体の施策や経済・社会的要因などが対象と家族の健康に与える影響を、統計データや資料のアセスメント、地域の方々や関係機関との交流を通して理解し、地域で展開される包括的なケアの実践を学修する。
到達目標		1)地域住民と実習関係者に対し、相手を尊重した態度で接することができる。 2)地域の健康課題をアセスメントし、それが生活にどのような影響を及ぼし、どのような疾病や傷害を引き起こしているかを知ることができる。 3)地域の健康課題に対応した自治体のサービス・施策を知り、その効果を考察できる。 4)地域の健康課題解決のため、どのような職種が活動し、協働連携しているかを理解できる。 5)地域の健康課題解決のための保健師の役割について述べることができる。 6)実習で経験したことを振り返り、自己の学習課題を説明できる。

日　数	授　業　内　容　及　び　計　画	指導教員
5日間	1.実習内容 1)地域アセスメント：既存データ、地区踏査で行った情報収集をもとに地域把握シートを作成し、地域の健康課題を把握する。 2)健康課題の解決に向けた施策やサービス、関係職種と、その多職種連携による活動を学ぶ。 2.実習方法 1)　実習時期　：　４年次　前期　６月～７月 2)　実習期間　：　１週間（月曜日～金曜日） 3)　実習時間　：　8:30～17:00 4)　実習場所　：　保健所、市町村役場または保健センター等 5)　実習の進め方 ・事前学習で、地域把握シートを用いて担当市町村の既存データを収集し、まとめる。 ・まとめたデータから地域アセスメントを行い、健康課題を抽出する。 ・抽出された健康課題の解決方法を検討する。 ・実習中のオリエンテーションや保健事業等への参加を通して、地域把握シートに新しい情報を追加する。 ・新しく追加した情報を用いて、地域アセスメントや健康課題、解決方法をよりその地域の実情にあった内容へと修正する。	牧　内 知　念 長　濱 未　定

テキスト	1.地域保健看護実習Ⅰ　実習の手引き、 2.荒賀直子,後閑容子.(2020).公衆衛生看護学.jp　第5版.インターメディカル
参考文献	地域保健看護実習資料集、看護法令要覧、国民衛生の動向、保健師活動指針
他科目との関連	疫学と保健医療情報、保健医療情報演習、沖縄の生活と文化、地域保健看護Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、保健医療制度、地域保健看護演習の内容を参考にして、地域アセスメントを行い健康課題の抽出と課題解決に向けた取り組みを考える。 本科目は保健師課程・看護師課程の読み重ね科目である。
成績評価の方法	事前学習（10%）、実習目標の到達度（60%）、提出物（10%）、実習態度(10%)、実習参加状況(10%)とする。ただし、実習オリエンテーションへの出席も実習評価に含まれる。

学生相談・学習体制	グループ指導教員が随時相談を受け、助言を行う。学生への教員の予定を知らせる工夫を、予定表の配布や掲示などで行い、相談しやすいように工夫する。
学習指導法の工夫	少人数授業
授業改善の特記事項	・学生がグループごとに自主的に協力し合って実習することができるように指導する。 ・講義の知識（理論）と実際の実習展開とを関連づけて学生を指導する。
備　考	地域アセスメントの参考にするために、保健事業などの保健師の活動に積極的に参加して、見学実施等を行う。 ・本科目は、看護師課程「臨地実習」『地域・在宅看護論』『看護の統合と実践』及び保健師課程「個人・家族・集団・組織の支援実習」の内容を含む。

科　目 コード	37143	授業 科目	地域保健看護実習Ⅱ (Community Health Nursing PracticumⅡ)	担当 教員	○牧内忍　知念真樹 長濱直樹 実務経験：あり

開講年次	4年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目 (保健師課程)	授業 形態	実　習
選択必修	必　修	時間数	90時間				

履修条件	前提科目	地域保健看護演習
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。
授業概要		保健所および市町村における地域保健看護（公衆衛生看護）の機能と体制、保健師の役割と活動の展開方法、家庭訪問等の保健指導技術について、見学や体験を通して学修する。また、広い視野に立つ地域保健看護（公衆衛生看護）活動の実際を理解するために、実習地区の特性や人々の健康に対する考え方や行動と地域の健康問題との関連、近隣関係や保健行政とのかかわりを学修する。
到達目標		1. 地域住民や実習関係者に対し、看護専門職者としての倫理観、責任感を持って関わることができる。 2. 市町村及び保健所等の役割、組織、業務と保健師の役割・機能を説明できる。 3. 地域、個人・家族の健康課題を明らかにし、公衆衛生看護活動と関連づけて説明できる。 4. 地域、個人・家族の健康問題の解決や健康増進に向けた公衆衛生看護活動を実施できる。 5. 健康問題の解決やＱＯＬの向上をめざした住民の主体的活動と、ヘルスケアの充実、質向上をはかるために関係機関等との連携のあり方を説明できる。 6. 実践したことを振り返り、自己の学習課題を説明できる。

日　数	授　業　内　容　及　び　計　画	指導教員
10日間	1.　実習内容 1)地域アセスメント：地域把握シート、保健事業一覧をもとに各事業を関連づけて保健師活動を考える。 2)家庭訪問：受け持ち事例の家庭訪問（１事例２回以上）を行い、事例検討会等を通して、家庭訪問指導の方法を学ぶ。 3)健康教育：小集団に対する健康教育を実施し、集団支援としての保健指導の方法を学ぶ。 4)健康診査・健康相談、その他保健福祉サービス：健康診査と健康相談について実施し、その他の保健福祉サービスについても実施・見学を行い、各事業について学ぶ。 5)地区組織・自主グループ活動：地区組織の概要、育成の経過・活用の状況と、保健師の役割について学ぶ。 6)多職種・関係機関との連携：受け持ち事例、各種保健事業、会議等における保健師を含む多職種との連携について学ぶ。 7)事例検討会・報告会：事例検討会や報告会を通して、家庭訪問事例の支援方法についての学びや、その他の保健事業に関する学びを学生どうしで共有する。 2.　実習方法 1）実習期間：8 月末～11 月　2 週間（月曜日～金曜日）祝祭日除く 2）実習時間：8:30～17:00 3）実習施設：市町村役場又は市町村保健センター、保健所等 4）実習の進め方 (1)実習前に全体オリエンテーションおよび指導教員による実習施設毎のオリエンテーションを受け、地域把握シート作成や健康教育指導案作成などの事前学習を行う。また、各自の実習目標を明確にし、保健事業予定表をもとに実習計画を作成し、担当保健師と調整を行う。 (2)実習計画に必要時修正を加えつつ、保健事業の実施・見学を行う。 (3)実習期間中は、毎日、担当保健師とカンファレンスをもち、学習内容を深める。 (4) 実習期間中に、事例検討会を行い、個別支援の学習を深める。 (5) 施設での実習最終日に臨地実習報告会を行い、担当保健師と指導教員に学びを報告する。 (6)実習最終日は学内で報告会を行い、各自の学びを共有する機会とする。	牧　内 知　念 長　濱

テキスト	1.地域保健看護実習Ⅱ　実習の手引き 2.荒賀直子,後閑容子.(2020).公衆衛生看護学.jp　第5版.インターメディカル
参考文献	地域保健看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび地域保健看護演習で使用したテキストおよび参考書等（地域保健看護実習資料集、看護法令要覧、国民衛生の動向、保健師活動指針）
他科目との関連	地域保健看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび地域保健看護演習との関連科目を統合して実習を行う。
成績評価の方法	事前学習（10%）、実習目標の到達度（60%）、提出物（10%）、実習態度(10%)、実習参加状況(10%)とする。ただし、実習オリエンテーションへの出席も実習評価に含まれる。
学習相談・学習体制	・実習施設毎の指導教員が実習終了後も随時相談を受け、助言を行う。 ・実習中は、原則として１日～2日に１回巡回指導を行うが、到達目標が到達できてない場合などは複数の指導教員で頻回指導を行う。
学習指導法の工夫	少人数授業
授業改善の特記事項	・学生がグループごとに自主的に協力し合って実習することができるように指導する。 ・講義の知識（理論）と実際の実習展開とを関連づけて学生を指導する。
備　考	・実習地域の健康問題と保健事業（個別支援、集団支援など）とを関連づけて実習を行う。 ・経験する事業等について予習し、主体的な態度で実習に臨む。 ・指導教員や実習担当保健師と十分に連絡をとり、実習計画の立案、健康教育指導案の作成　を行う。また、報告・連絡・相談をタイムリーに行う。

科　目 コード		授業 科目	在宅保健看護演習 (Home Health　Nursing Seminar)	担当 教員	○佐久川政吉 松田めぐみ 実務経験：あり

開講年次	4年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目 (保健師課程・看護師課程)	授業 形態	演　習
選択必修	必　修	時間数	30時間				

履修条件		
	前提科目	精神保健看護実習　小児保健看護実習　母性保健看護実習　成人保健看護実習　老年保健看護実習　クリティカルケア看護実習
	その他	なし

授業概要	在宅で暮らす対象者の健康レベルと発達段階に応じた看護について、アセスメントとケア技法を具体的事例で学び、在宅保健看護に必要な生活者の視点と協働能力を学修する
到達目標	1. 在宅で暮らす対象者の健康レベルに応じた看護について述べることができる 2. 在宅で暮らす様々な発達段階にある対象者の健康課題について、家族を含めて、生活者の視点から総合的にアセスメントができる 3. 発達段階に応じた事例の在宅看護過程が展開できる 4. 在宅で特徴的なケア技法について述べることができる 5. 在宅で暮らす対象者の QOL 向上につながる社会資源の活用や協働連携の実際について、述べることができる

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第 1 回	ガイダンス、在宅で暮らす対象理解：療養者と家族への生活者の視点(グループワーク：文献検討) 在宅で暮らす対象者の健康レベルに応じた看護	参考文献 1. pp. 1-41、参考文献 2. pp. 105-110, 123-145	佐久川	演　習
第 2 回	1）退院後の在宅療養初期、回復期（グループワーク：事例検討）	テキスト 1. pp. 32-354		
第 3 回	2）慢性的な療養期（グループワーク：事例検討）	〃		
第 4 回	3）終末期（グループワーク：事例検討）	テキスト 1. pp. 355-413		
第 5 回	4）生活習慣病の予防、健康・生きがいづくり（グループワーク：事例検討）	テキスト 1. pp. 32-354		
第 6 回	発達段階に応じた在宅看護過程の展開 1）小児期	テキスト 1. pp. 1-31、399-413、参考文献 2. pp. 173-181		
第 7 回	2）成人期	テキスト 1. pp. 1-31、146-172、参考文献 2. pp. 173-181		
第 8 回	3）老年期	テキスト 1. pp. 1-31、124-145、参考文献 2. pp. 124-145		
第 9 回	在宅におけるケア技法 1）相談機能：面接技術（初回面接等）（ロールプレイ）	参考文献 2. pp. 73-100		
第 10 回	2）教育機能：本人・家族への教育技術（グループワーク：ロールプレイ）	〃		
第 11 回	3）調整機能：家族・住民、専門職との調整技術（グループワーク：事例検討）	〃		
第 12 回	4）直接ケア機能：在宅酸素療法、疼痛管理、移動・外出支援等（機器・福祉用具を用いたデモンストレーション）	テキスト 1. pp. 48-55、参考文献 2. pp. 201-222		

第 13 回 第 14 回 第 15 回	在宅における社会資源の活用　自助、互助、共助、公助（グループワーク：事例検討） 在宅における協働連携の実際　住民、専門職との連携（グループワーク：事例検討） 演習の振り返り・まとめ（個人レポート）、在宅保健看護実習に向けた準備	参考文献 1. pp. 108-145 参考文献 1. pp. 74-107 テキスト 1、参考文献 1、参考文献 2		
テキスト	1. 河野あゆみ（2018）強みと弱みからみた 在宅看護過程:＋総合的機能関連図，医学書院			
参考文献	・大湾明美（2021）島に学ぶ地域ケアー高齢者の豊かな人生を創る発想の転換，初版，オフィス・コオリノ. ・石垣和子・上野まり編集（2017）在宅看護論―自分らしい生活の継続をめざして（看護学テキストNiCE），改訂第2版，南江堂.			
他科目との関連	学習した内容を「在宅保健看護実習」で応用し発展させていく。 本科目は保健師課程・看護師課程の読み重ね科目である。			
成績評価の方法	授業参加状況：30%、グループ内での貢献度（学生間のピア評価）：10%、グループの報告書：20%、（個人）課題レポート点：20%、ポートフォリオ（学習記録・資料等）：20%			
学習相談・学習体制	授業での疑問等については、担当教員は随時対応する。原則、月曜と火曜の 4･5 限目を学生からの質問や相談等に対応するオフィスアワーとし、科目責任者または担当教員の研究室等で対応する。			
学習指導法の工夫	グループワークでの事例検討やロールプレイによる少人数授業とする。			
授業改善の特記事項	グループワークを導入し、学生の主体的な授業への参加を促す。			
備　考	指定された日時までに以下を提出する：グループの報告書、（個人）課題レポート、ポートフォリオ（学習記録・資料等）、自己評価票 ・本科目は、看護師課程「地域・在宅看護論」及び保健師課程「個人・家族・集団・組織の支援」「公衆衛生看護活動展開論」の内容を含む。			

科　目 コード	37150	授業 科目	在宅保健看護実習 (Home Health　Nursing Practicum)	担当 教員	○佐久川政吉　大川嶺子 宮里智子　上原和代 宮城裕子　田場由紀 山口初代　砂川ゆかり 光来出由利子　松田めぐみ 実務経験：あり

開講年次	４年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目 (保健師課程・看護師課程)	授業 形態	実　習
選択必修	必　修	時間数	90時間				

履修条件	前提科目	精神保健看護実習　小児保健看護実習　母性保健看護実習　成人保健看護実習　老年保健看護実習　クリティカルケア看護実習
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、Ｂ型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。
授業概要		生活機能障害をもち、在宅で生活している様々な発達段階にある対象者の健康課題を、家族を含めて総合的に理解し、具体的な看護技術を提供しつつ、住民の強みを生かしたケアの工夫を学修する。また、多様な専門職との連携・調整に必要な協働能力を学修する。
到達目標		1. 在宅の対象者の QOL を向上させるための生活ニーズおよび家族の生活ニーズについて、生活の個別性・全体性・連続性・地域性を含めて、総合的にアセスメントできる 2. 対象者の在宅生活を支えている社会資源と協働連携して健康問題の解決のための実施ができる 3. 対象者の QOL の向上に生かせる新たな社会資源を見いだすことができる 4. これまで学習した施設ケアと在宅ケアを継続させるための看護職者の役割について述べることができる 5. 在宅でケアを受けながらのその人らしい生活とは何かについて述べることができる

授業回数	授　業　内　容　及　び　計　画	指導教員
10日間	１．実習内容 1)生活機能障害を持ち、訪問看護等を受けている対象者（小児～高齢者）を担当事例として１事例を受け持つ。 2)対象者への看護過程（アセスメント、計画、実施、評価）を展開する。 3)対象者以外の訪問看護にも同行し(2-3 件/日)、担当事例の看護計画に役立てる。 4)訪問看護師の役割機能及び在宅と施設の環境及びケアの相違について学習する。 5)訪問看護ステーション等を拠点に、対象者の自宅や利用施設への訪問、及び居宅介護支援事業所や訪問系・通所系サービス等でのケアに参加しながら情報収集を行い、総合的にアセスメントする。 6)対象者と家族を支えている社会資源（友人・隣近所等のインフォーマルサポート、専門職・行政等のフォーマルサービス）について把握する。 7)立案した看護計画の中から、学生として実施可能な課題を選択し、実習指導者または担当教員の指導の下で実施する。 8)毎日のカンファレンス、第１週目の４日目木曜日の合同カンファレンス（施設実習指導者含む）、実習最終日（金曜日）の報告会（学内）で、学びを共有する。 9)最終的に、看護過程の実習記録、課題レポートを提出する。 ２．実習方法 1）実習期間：10 日間（月曜日～金曜日）祝日を除く 2）実習時間：8 時 30 分～16 時 30 分（ただし、実習施設ごとの変動あり） 3）実習施設：訪問看護ステーション等 4）実習の進め方：	佐久川 大　川 宮　里 上　原 宮　城 田　場 山　口 砂　川 光来出

＜事前課題＞

・学生と対象候補者のマッチングを行う。実習開始の１週間前に対象候補者の情報から学生の既習した実習内容や担当したい対象候補者の情報を踏まえ、マッチングを行う。

・対象候補者の基本情報、疾病の特徴等から、疾病管理、生活機能障害へのケアに関する知識の整理を行う。

・対象候補者の利用しているフォーマルサービスについて、法的根拠と機能を理解する。また、対象候補者が暮らしている地域のフォーマルサービス及びインフォーマルサポートについて情報を収集する。

＜実習＞

・1 日目は、実習先で施設実習指導者のオリエンテーション、教員のオリエンテーションを受ける。

・毎日の実習開始時および終了時には教員とのカンファレンスを行う。開始時のカンファレンスでは、その日の実習内容とその目的を共有し、終了時は目的の達成状況と課題を確認しながらグループメンバーで日々の学びを共有する。

・実習では、対象者の状況に応じて、自宅以外での展開も積極的に行う。自宅以外で対象者が行き来している友人宅や地域のサロンや公民館、公共機関・介護事業所（デイサービス等）への同行や、自宅がある地区の踏査を行い、活用可能な社会資源を見いだす。

・実習２日目は、施設実習指導者と担当教員を交えて看護計画検討会（事例検討）を行い、援助の方針や計画を発表、指導に基づき検討、修正する。

・看護計画の内容を施設実習指導者または担当教員の指導の下で第２週目の４日目までに実施し、評価を行う。

・計画・実施した中で対象者の QOL を向上させるために今後も必要なケア（学生が見いだしたケア、新たな社会資源等）について、関係者（家族、友人・知人、専門職者等）に引き継ぐ

・実習最終日（学内）では、実習の目的、目標に照らして学んだことを発表する。発表時間は、７分とする。学生は７分で学びが伝わるよう発表原稿と配布資料を作成し、プレゼンテーションを工夫する。

５）記録物の作成

・その日に学んだことを「日々の実習記録」（様式１）に 1,000 字程度で記載する。その際、実習目的・実習目標を踏まえ、講義資料や文献を活用し、考察する。

・対象の医療ニーズ、生活ニーズを導くために、英国式アセスメントガイドライン（参考資料①）に基づき情報を収集、情報用紙Ⅰ（様式２）を作成する。

・これらの情報から、７つの次元でニーズと社会資源をアセスメントし、「情報用紙Ⅱ（全体像）」（様式３）を作成する。

・情報用紙Ⅱのアセスメント内容にもとづき、「情報用紙Ⅲ」（様式４）では、フェルトニーズとノーマティブニーズを整理、「情報用紙Ⅳ」（様式５）でリアルニーズを導く。

・情報用紙Ⅱ～Ⅳに基づき、看護計画を立案する。「看護計画用紙Ⅰ」（様式６）では、対象と家族の意向を踏まえた援助の方針を導き、「看護計画用紙Ⅱ」（様式７）、「看護計画用紙Ⅲ」（様式８）に計画内容を記述する。

・看護内容の評価および新たな課題について「看護計画用紙Ⅳ」（様式９）に記述する。

・実習を通して学んだ『在宅でケアを受けながらのその人らしい生活とは何か』について、レポートを作成する。レポートは、A4 用紙に 2,000 字程度（ワープロ使用）で整理する。

６）記録類の提出

・日々の実習記録：翌朝実習指導教員へ提出（当日中に教員がコメントし返却）

・実習記録、課題レポート：すべての記録をとりまとめ、最終日の 18 時に提出

テキスト	在宅保健看護実習の手引き
参考文献	・河野あゆみ（2018）強みと弱みからみた 在宅看護過程:＋総合的機能関連図，医学書院 ・大湾明美（2021）島に学ぶ地域ケアー高齢者の豊かな人生を創る発想の転換，初版，オフィス・コオリノ. ・石垣和子・上野まり編集（2017）在宅看護論―自分らしい生活の継続をめざして（看護学テキストNiCE），改訂第2版，南江堂.
他科目との関連	「在宅保健看護演習」での学びを応用し、アセスメントや看護過程、ケア技法等で発展させていく。 本科目は保健師課程・看護師課程の読み重ね科目である。
成績評価の方法	・実習指導教員の評価項目：学習参加状況（実習オリエンテーションを含む）、実習態度、カンファレンスへの参加、学内実習の報告、討議の参加状況、実習記録や課題レポートなどの諸記録 授業参加状況：10%、実習態度：10%、カンファレンス・報告会の参加状況：10%、施設実習指導者の評価：10%、個人課題レポート点：20%、実習記録：40% ・施設実習指導者の評価項目：5項目とし、それぞれA（優れていた）、B（普通）、C（課題がある）の3段階で評価する ・科目責任者の評価項目：上記をふまえ総合的に判断、評価を行う
学習相談・学習体制	授業での疑問等については、担当教員は随時対応する。原則、月曜と火曜の4･5限目を学生からの質問や相談等に対応するオフィスアワーとし、科目責任者または担当教員の研究室等で対応する。特に島嶼の実習施設への移動については、事前に担当教員と相談・調整しながら進める。
学習指導法の工夫	グループワークの少人数教育や、訪問看護師との同行、訪問前後の担当教員との相談・調整等を行う。
授業改善の特記事項	グループワークを導入し、学生の主体的な授業への参加を促す。 実習期間中は、「実習の手引き」や科目「在宅保健看護演習」の資料を携帯し、理論知と実践知（経験知）を組み合わせながら思考し、実習展開ができるようにする。
備　考	指定された日時までに以下を提出する：実習記録（全部）、課題レポート、自己評価票 ・本科目は、看護師課程「臨地実習」の『基礎看護学』『地域・在宅看護論』『成人看護学』『老年看護学』『小児看護学』『母性看護学』『精神看護学』及び保健師課程「個人・家族・集団・組織の支援実習」「公衆衛生看護活動展開論実習」の内容を含む